

vol.121

# 福井

YEG 福井商工会議所青年部会報

発行日／令和3年3月25日

発行者／中川 知士 編集者／宮田 由紀恵

発行所／福井商工会議所青年部

福井市西木田2-8-1

TEL:0776-33-8253 FAX:0776-36-8588



ゲンカイトッパ

令和2年度会長挨拶	2	卒業生の言葉	26
令和2年度県連役員の言葉	3	新入会員紹介	29
令和2年度活動報告	5	令和3年度会長抱負／委員長抱負	31
全国大会特集	11	あじさい会通信／結婚・おめでた・西木田通信	36
令和2年度一年間の振り返り	18		



福井商工会議所青年部

令和2年度会長

中川 知士

令和2年度スローガン「現改突破～超えろ！地域発展の礎になるために～」を胸に活動しようとしたちょうど1年前、新型コロナウイルスが猛威を振るい、日本中、世界中が暗黒の世界へと変貌しました。コロナウイルス感染拡大防止のため福井 YEG においても6月末まで活動中止という決断をさせて頂きました。前代未聞の年度になり、メンバーと会う事さえ許されなかつた辛さ・不安を今でも覚えております。

多くの制約を余儀なくされる中でも福井 YEG のチカラはさすがだと感じました。WEB 会議システム ZOOM をすぐに活用してリアルで会えない部分を補う事ができた事。そして今何が出来るのかを知恵を振り絞ってコロナ対策を打ち出し、会員のため、地域のために行動できた事。例会や事業においても感染拡大防止を徹底し、リアルとオンラインを融合したハイブリットでの開催を実現する事ができました。現状に満足せず、あきらめずもがきながら、半歩でも前に進もうと皆が考えて行動してくれました。まさにスローガン「現改突破」を胸に活動してくれた結果だと感じます。大変な状況の中で活動してくれたメンバー全員に感謝しかありません。ありがとうございます。

今年度は第40回全国大会しあわせ福井さばえ大会が開催されました。結果的に大会プログラムが縮小され、全てがオンラインでの開催となりました。日本 YEG 会長の想い、大会会長・実行委員長・県連会長の想い、長い時間をかけて準備してきたメンバー（実行委員会メンバー）の想い、福井 YEG の想い、いろんな想いをオンラインに乗せて発信できたと思っております。「visit fukui someday」全国のメンバーにはコロナが終息してから、いつの日か福井に訪れて欲しい、そして福井のメンバーと交流して欲しいと願うばかりです。

令和2年度を振り返ると、本当に大変な1年でした。「なぜこの年にコロナなんだよ」と何回自問自答した事でしょう。不安で辛い日々が続いておりましたが、福井 YEG の皆が私を支えてくれました。こんな状況でも楽しいと感じさせてくれました。下を向かず後ろを振り返らず、ただ前を向いて上を向いて進んで来れたからこそ今があると思います。記憶に残る令和2年度を私と共に歩んでもくれた全メンバーに心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

私の想いは次年度に託します。天野会長頼んだよ～！



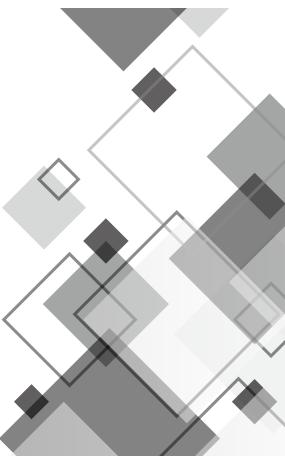


— 県連スローガン —

### 勇往邁進・勇猛精進

福井県商工会議所青年部連合会  
令和2年度会長

菊 祥行



1年間、県連出向の我々を単会からご支援いただき誠にありがとうございました。

昨年1月に開催された令和2年度役員オリエンテーションで我々5名の県連出向者が考えた方針は、36年という伝統と歴史がある福井県連で、どの年度にも負けない最高の県連を目指すことを誓い合い、中川会長のスローガンになぞって「歴代突破！」としました。まさかその時には、新型コロナウイルス感染拡大に伴い4月に緊急事態宣言が発出され、6月末まで県下各単会と同じように活動自粛、7単会の総会への参加、役員会や代議員総会、2月の会員大会までもリアルに集まることができず、オンラインにて画面越しに行われるとは…、役員会後の懇親会も1回も実施することができず、県連の醍醐味のひとつである単会を越えた交流も一切できないとは…予想すらしていませんでした。

そのような状況は各単会も同じでしたが、コロナ禍のなか「今、自分達に何ができるのか」を真剣に考え工夫を重ねて実行に移したテイクアウト事業や、コロナ終息の願いを込めた打ち上げ花火等の数々の事業がメディアに数多く取り上げられ、YEGのブランド向上に寄与できたことは、今までにはなかった動きと言っても良いでしょう。

また、8月に全体交流事業として全国大会に向けた決起集会をサンドーム福井で開催できたことは、福井県連にとって大きな転換期であり、全国大会という目標に向けて毎月開催された実行委員会や打ち合わせを通じて県連メンバーと時間を共有できたことは、貴重な1年だったと思います。「第40回全国大会 しあわせ福井さばえ大会」は本来であれば6,000名を超えるメンバーが全国から福井に来ていただき、福井の文化や産業、食や観光に触れていただける絶好の機会でした。

残念ながらオンライン開催となり、人数も制限、直前まで変更に変更を余儀なくされ大変苦労しましたが、我々は最後まで出来ることをやり切ることができました。オンラインとなった福井YEGの分科会も決して無駄ではなく、実施にこぎつけるまでの取り組みやこれまでに繋がった関係は今後も活かされると思います。

全国大会は終わりではありません、県連にとっても福井YEGにとってもここからが次のはじまりです。数十年に一度しか巡ってこない全国大会をYEGの一員として担ったことを誇りに持ち、今回得た貴重な経験を今後の自身や自社の発展、YEGの活性化、地域の再生の為に活かしましょう。

# 令和2年度県連役員の言葉



福井県商工会議所連合会  
令和2年度専務

森 淳一郎

「菊会長を一人にするな」

今年度が始まる直前、静岡で開催された全国大会の場において、ある大先輩から言わされた一言です。その一言が、この1年間の三役の在り方をまさに示していました。

コロナと共に始まつた令和2年度。福井県連が主管であった全国大会はもちろん、多くの県連事業を満足に実施することができず、たくさん悔しい思いを経験しました。県連の中でも想いが噛み合わず意見がぶつかることもありました。皆さんから見えないところで会長は本当に多くの問題に向き合い、皆さんにとつて少しでもいい方向に物事が進むよう尽力されてきました。そんな会長を、上田会計と私とで支える。最初の頃は、専務って何?と手探り状態でしたが、ただひたすら会長の傍に付いて支えになる。細かい役目は他にもたくさんありましたが、それが一番大事な役目だったのだと、今は実感を込めて言うことができます。

「県連専務を任せたいと思っている」と菊会長から最初にお話をいたいたのは、今から3年前。私がまだ入会2年目の時です。そんな時から目をかけて抜擢いただき、全国大会主管県連の専務という二度とない経験をさせてくださった菊会長、共に県連を盛り立ててくれた上田会計に、心から感謝申し上げます。最高の三役でしたね!ありがとうございました!



福井県商工会議所連合会  
令和2年度会計

上田 敬士

「県連会計つていいたい何をすればよいの」

令和2年度県連がスタートし、会計として自分は何をすべきか、何が出来るのか、常に自問自答の日々でした。県連会計の表立った実務としては年度初めの年間予算の上程、年間通じて事務局が行う予算管理の補助、年度終わりの決算報告だけです。菊会長、森専務の実務は盛り(森)だくさんです。菊会長も森専務もとにかく根が真面目で頑張る二人なので私は二人を支えること、何か抱えていたら手伝うことから始めました。

二人は能力も高く、私の出番はあまりありませんでしたが、徐々に三役で集まり相談する機会が増え、私は二人を和ませ二人のストレス発散のお手伝いをしようと思いました(ストレスを与えていた気もしますが…).活動の中で「今年の三役はバランスが最高だね」との言葉を何名からいただき、とても嬉しかったです。役立たずで反省点ばかりですが、県連会計というのはフリーな代わりに三役のバランスを保つ役割であると思いまして。菊会長と森専務と私という凸凹で最高の三役で活動出来て忘れられない最高の1年、本当にありがとうございました。

最後に、県連出向すると福井県内にYEG仲間がたくさん増えます、出向楽しいですよ!



# 令和2年度 活動報告



## 4月定期総会



4月15日（水）19時より、web会議システム「ZOOM」にて、4月定期総会を開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の一環として、当会初のweb会議システムでの総会開催となりましたが、80名近くのメンバーに参加いただきました。

4月定期総会では、第一号議案「2019年度事業報告（案）並びに収支決算（案）」第二号議案「令和2年度事業計画（案）」第三号議案「令和2年度収支予算（案）」これら全ての議案が全会一致で承認可決されました。

議案審議後、2019年度朝田会長より退任の挨拶があり、中川会長より2019年度朝田会長へ花束と記念品が贈呈されました。その後、2019年度朝田会長から中川会長へ会長バッジ及び歴代会長が継承するYEGネクタイが託されました。

議案審議後、2019年度朝田会長より退任の挨拶があり、中川会長より2019年度朝田会長へ花束と記念品が贈呈されました。その後、2019年度朝田会長から中川会長へ会長バッジ及び歴代会長が継承するYEGネクタイが託されました。

新型コロナウイルス感染が拡大し、非常事態宣言が発出された4月、中川会長から「未来創造委員会でWEB会議システムのZOOMを活用して何かしてほしい」という一言があり、急遽、事業の構築が始まりました。

そして、令和2年5月27日（水）にZOOMを活用したオンラインミーティング（3WEB会議事業）を開催。「コロナ対応補助金・助成金Q&A」「コロナ禍の中で、明るい未来について語ろう」、「ZOOMに気軽に触れてみよう」という3つのテーマを設定し、ミーティングルームを作成しました。会員が興味のあるテーマを選びミーティングルームに入室していく。



## 3WEB会議事業

# 7月例会

令和2年7月29日（水）、『7月例会～ビジネスコラボレーション事業持続可能な商品開発で現在（いま）を改め、突き破る～』を開催しました。

新型コロナウイルス感染拡大により、福井YEGは4～6月まで活動を自粛しており、7月例会が今年度初めての事業開催となりました。

趣旨説明後、社会課題の認識と事業継続性を高めるために、SDGs公認ファシリテーターの村綾菜氏に「SDGs」についてご講演いただきました。

次に業種ごとのグループに分かれてあらかじめ準備してきた自社における強み・問題点などをまとめた「整理シート」をグループ内で共有し、この業種（グループ）での問題点、何ができるか、コラボしてみたい業種を考え発表しました。

この例会で出したアイデアを元に、インタボレーシヨン委員会で業種を超えたユニットを作り、ユニットごとにプラッシュアップし、12月例会でプレゼンを行うことになりました。



## コラボミーティングについて

7月例会でのグループワーク結果に基づいて、3つのグループに振り分け、それぞれの日時と場所でコラボレーションミーティングを何度も開催しました。

概ね福井商工会議所会議室において開催しましたが、Web会議ツール「Zoom」を併用することで、新型コロナウイルス感染症への対応と遠隔地からの参加を容易にすることに努めました。

7月例会での学びを活かしながら、段階的にコラボレーションミーティングにおいて発展させることを狙いとしましたが、出席したメンバーは限定的、固定的になってしまったのが非常に残念でした。

ほぼ半年のコラボレーションミーティング継続によるグループワークを通じて、会員間の相互理解や交流を深め、業種間の相乗効果の可能性を模索する機会創出により、会員各社の社業の一助とすることができたかと思います。ミーティングに積極的に参加いただいた皆様に感謝申し上げます。



## 9月臨時総会

9月2日（水）19時より、福井商工会議所ビル地下コンベンションホール及びWeb会議システム「Zoom」にて、9月臨時総会を開催しました。

4月定期総会後も新型コロナウイルス感染拡大にともない、6月末までは青年部活動も自粛せざるを得ないという前代未聞の年度となりました。

7月から活動を再開しましたが、当初計画していた事業の中止、現状の事業計画では実施が困難となつた事業も出てきたため、臨時総会を開催しました。

臨時総会では第一号議案「令和2年度事業計画変更（案）」第二号議案「令和2年度補正予算（案）」について承認をいただきました。今年度は海外研修事業や人が集まるような事業は取り止めとなりましたが、「観光客の周遊を促す案内ツールの作成」や、小学校を中心で実施しているキャリア教育事業「アントレ・キッズ」をオンライン化するなど、社会の変化に応じた事業に変更し活動を継続していくこととなりました。例年ですと、4月定期総会後に撮影する集合写真を、9月臨時総会後にソーシャルディスタンスを保った新しいスタイルで撮影しました。



## 9月事業

9月臨時総会に引き続き、中期ビジョン落とし込み事業（YEG愛で未来に価値を生み出す実践者となれ～中期ビジョン達成のアクションを）を開催しました。

昨年度開催された福井YEG45周年記念式典で福井YEGの中期ビジョン「越境し学びを得て、社会実装する実践コミュニティとなる」が策定されました。会長方針においても、「越境し学びを得る」ことにフォーカスをあてることが明記されておりました。新型コロナウイルス感染症により、活動自粛の期間もあり、また、このような「予測不能な」状況において、これから福井YEGの組織運営の変化も求められるところでした。会員が福井YEGの活動を「自分ごと」とし「越境して学び」を得ていくため、どの様なイメージを持ち具体的なアクションを行うべきか。会員全員で考え、共有し、次年度以降に繋がる事業にできたのではないかと思います。



## 令和2年度活動報告

### 9月例会

9月23日（水）に福井商工会議所ビルコンベンションホールにて、新入会員と現会員との交流を通して、YEG会員間の人脈拡大や連帯強化を目的とした9月例会【だいじょうぶだあ！「9月だヨ！全員集合】を開催しました。

今年度の新入会員を中心構成される「ボテンシャル発掘委員会」が企画運営を行いました。

コロナ禍でもあり、交流事業の内容について模索しながら、リアルとオンライン併用の例会を企画し、リレー・似顔絵ゲーム・クイズ3つの競技で、

チーム戦でゲームを進めていきました。各チームの中には新入会員を配属し、一緒にプレイし、密を意識しながらも楽しみながら交流を深め、高得点を得た1～3位のチームのメンバーには豪華景品が当りました。

景品の中には新入会員の企業の商品やサービス券が含まれ、新入会員自身の情報発信の機会になりました。ゲームになるとやはり盛り上がりますね。みんな似顔絵うまい！！

今回の例会で得た「つながり」は、参加したYEG会員の間で長く役立つものとなることを期待しています。



令和3年3月に開催される第40全国大会をわせ福井さばえ大会の決起会という位置づけで、10月例会「想いを一つにして継ぎ、紡ぎ、繋げる全国大会開催へ、決起会！」を開催いたしました。

活動自粛期間を経て、全国大会に対する明確なイメージとリアリティを持ち、行く側（ゲスト）ではなく行う側（ホスト）としての意識を高めるべく、二部構成で行いました。

一部では、「継ぎ、紡ぎ、繋げる会長たちの想い」と称して過去3大会の大会会長によるリレー形式のメッセージ動画を流し、それを受けて今大会会長である西村昭宏会長（鯖江YEG）に、今大会において繋げていきたい想いを語っていただきました。やはりトップからの直々のメッセージというものは心に響くもので、福井YEG参加者全員の全国大会に向けての心の準備はできたのではないかと感じました。

二部では、我々福井YEGが企画運営する福井分科会の3コースとOBサロンを実際に体験し、我々の役割を再認識するとともに、感想や意見を聴取することで、企画内容のさらなるブラッシュアップへの糧としました。

県内他単会のメンバー（主に実行委員会の分科会部会）からも参加をいただき、福井一願の名のもとに、全力で全国大会に臨むきっかけになりました。

### 10月例会



令和2年3月に開催される第40全国大会をわせ福井さばえ大会の決起会という位置づけで、10月例会「想いを一つにして継ぎ、紡ぎ、繋げる全国大会開催へ、決起会！」を開催いたしました。

活動自粛期間を経て、全国大会に対する明確なイメージとリアリティを持ち、行く側（ゲスト）ではなく行う側（ホスト）としての意識を高めるべく、二部構成で行いました。

小田島社長の講演は、全く知らなかつた新しい考え方やノウハウが満載で、講演後も次々と質問が出てきて、大変盛り上がったビジネス例会でした。例会終了後も、「新しい考え方やノウハウが聞けてとても参考になつた」、「事例だけではなく、ノウハウ化された話が良かつた」、「実際に明日から取り組んでいきたい」といった声も多く、会員にとって学びが多い例会でした。



### 11月例会

令和2年11月25日（水）福井商工会議所コンベンションホール（ZOOMウェビナーで同時配信）にて、株式会社エビラボの小田島社長をお呼びし、「11月例会 中小企業のデジタルシフトによる先進事例を学ぶ」をテーマにご講演いただきました。

株式会社エビラボ様は、AIやデジタルツールを駆使し、最先端のDX企業として注目されており、デジタルシフトやデジタルトランスフォーメーション（DX）の事例やノウハウをお話しいただきました。

## 12月定期総会

12月16日（水）19時より、福井商工会議所ビルコンベンションホール及びweb会議システム「Zoom」にて、12月定期総会を開催しました。

12月定期総会では、第一号議案「令和3年度役員選出（案）」「第二号議案「令和3年度基本方針（案）」「第三号議案「令和3年度暫定予算（案）」が審議され、全会一致で承認可決されました。

令和3年度福井商工会議所青年部第43代会長に天野準一君（株式会社天たつ）が承認されました。令和3年度は「Richness creators～交わりあい、高めあい、豊かな郷土は我らが創る～」のスローガンの下、見えない未来に迷うことなく多くの人々がそれぞれの豊かさを叶えられる福井

であり、どこに行つても気心の知れた仲間に出会うことができる福井になることを目指す一年にしようと力強く想いを述べていただきました。



令和2年12月16日（水）、12月総会終了後に、『12月例会～ビジネスコラボレーション事業持続可能な商品開発で現在（いま）を改め、突き破る～』を開催しました。

これまで、7月例会をキックオフとして、SDGsの理解を進め、コラボレーション事業を進めてきました。12月例会においては、コラボレーション事業の構築を進めていた、3つのユニット

「AKI→YOSHI（建築、土業・不動産、保険）、MOTTAINAI,s（スマイルアゲイン）、（製造、飲食・食品、小売）、MAGONOTE（IT、クリエーター、サービス）」ごとにアイデアや成果のプレゼンを行いました。プレゼンについては、会長、直前会長、監事の4名の方に審査いただき、最高得点のプロジェクトを表彰しました。見事、最高得点を獲得し優勝したのは、MAGONOTEのユニットになります。おそらく文化を実現するマッチングアプリ「MAGONOTE」の発表をしていただきました。

例会の冒頭には福井県知事 杉本達治様、福井商工会議所会頭 伊東忠昭様をご来賓としてお招きし、福井県の長期ビジョン（目指すべき未来）のお話や我々福井YEGに対しての温かいメッセージをいただきました。



後半には、福井県地域戦略部未来戦略課参事 北川善一様より福井県の長期ビジョンのご説明をいただき、福井商工会議所 高見和宏専務を交えてパネルディスカッションを行つたりしました。長期ビジョンの説明やパネルディスカッションを通じて、より具体的に2040年の福井の未来について知ることができ、その内容を基に、自社でどんなことに取り組んでいくのかについて考える良いきっかけとなりました。



## 12月例会

令和3年1月27日（水）、福井商工会議所コンベンションホールにて、福井県と福井商工会議所（親会）と共に「1月例会～これから福井の経済を考える～」を開催しました。

## 1月例会

令和3年1月27日（水）

福井商工会議所コンベンションホールにて、福井県と福井商工会議所（親会）と共に「1月例会～これから福井の経済を考える～」を開催しました。

ナの影響により、年初当初の職務分掌はすべてイベント中止の為、何も出来ずになりました。しかし、委員会として『今できる事』を考えて企画した2月例会は新しい形を作れた例会でした。

24時間例会をするという新しいチャレンジと完全なWEB例会として、委員会メンバーが全てを企画した例会でした。途中機械トラブルなどもありましたが、無事に24時間の例会を完遂する事が出来ました。2月例会は日本YEGから後援を頂き日本全国のYEGの単会からも応援のメッセージを頂き、動画撮影には福井県連の皆様からも協力を得て福井YEGのひとつつの例会としては、とても規模が大きいものになった例会となりました。再生回数は約3000回、視聴者数は約1100名の方に見て頂く事が出来ました。

何となくの思いつきで提案した内容の『福井YEGの24時間例会ができるかな?』を24時間の例会はできるという答えを出した委員会には感動と感謝と称賛しかありません。



## 福井YEGの 24時間例会 できるかな?

## 2月 例 会

今年度の活動としてコロナの影響により、年初当初の職務分掌はすべてイベント中止の為、何も出来ずになりました。しかし、委員会として『今できる事』を考えて企画した2月例会は新しい形を作れた例会でした。

24時間例会をするという

新しいチャレンジと完全なWEB例会として、委員会メンバーが全てを企画した例会でした。途中機械トラブルなどもありましたが、無事に24時間の例会を完遂する事が出来ました。2月例会は日本YEGから後援を頂き日本全国のYEGの単会からも応援のメッセージを頂き、動画撮影には福井県連の皆様からも協力を得て福井YEGのひとつつの例会としては、とても規模が大きいものになった例会となりました。再生回数は約3000回、視聴者数は約1100名の方に見て頂く事が出来ました。

何となくの思いつきで提案した内容の『福井YEGの24時間例会ができるかな?』を24時間の例会はできるという答えを出した委員会には感動と感謝と称賛しかありません。

## 新年 祈祷会

当初、1月役員会開催日である令和3年1月13日に開催予定でしたが、大雪のため、役員会開催も

オンライン開催と変更になり、新年祈祷会も2月10日に延期になりました。

黒龍神社にて開催しました。

新型コロナ感染症拡大のためYEG活動を自粛せざるを得ない期間があり、そのような時でも会員間の交流を図るために、ZoomとYouTubeを使い、計8回開催しました。

実際に現場に行くことができない状況を想定した時、今までの内容では授業の遂行が難しく、現場の先生方にもどの様な指示をどのタイミングで送ればよいのか等、まずは私たち自身の授業内容の再構築からスタートしました。

また、学校によって生徒数や通信環境も違つてくるため、何度も学校へ足を運び、通信テスト等を繰り返しました。

この様な数多くの準備を重ねて本番を迎えたわけですが、まず最初に印象的だったことは、子どもたちが講師メンバーとオンラインを通してつながったときの感動の声でした。

そして、肝心の授業ですが、始めは戸惑いもあつたものの、オンライン上で双方向にやり取りができたこと、体験内容も事前にオンライン用に再構築できることもあり、通常のアントレ・キッズと何ら遜色のない授業ができたと思います。

とはいって、環境によつては通信が途切れたり、音声が聞き取りづらかつたりと、課題も多く散見されたのも事実で、今後これらの課題を更にブラッシュアップし、「オンライン版アントレ・キッズ



## 福井YEG 現改突破ラジオ



## オンライン版アントレ・キッズ

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、通常は対面で行われるアントレ・キッズを、配信機器などを活用し、オンラインで授業を届ける「オンライン版アントレ・キッズ」を開催しました。

私たち福井YEGはもちろん、学校側も初の試みとあり、試行錯誤を繰り返しながらの実施となりました。

私たち福井YEGはもちろん、学校側も初の試みとあり、試行錯誤を繰り返しながらの実施となりました。

実際に現場に行くことができない状況を想定した時、今までの内容では授業の遂行が難しく、現場の先生方にもどの様な指示をどのタイミングで送ればよいのか等、まずは私たち自身の授業内容の再構築からスタートしました。

また、学校によって生徒数や通信環境も違つてくるため、何度も学校へ足を運び、通信テスト等を繰り返しました。

この様な数多くの準備を重ねて本番を迎えたわけですが、まず最初に印象的だったことは、子どもたちが講師メンバーとオンラインを通してつながったときの感動の声でした。

そして、肝心の授業ですが、始めは戸惑いもあつたものの、オンライン上で双方向にやり取りができたこと、体験内容も事前にオンライン用に再構築できることもあり、通常のアントレ・キッズと何ら遜色のない授業ができたと思います。

とはいって、環境によつては通信が途切れたり、音声が聞き取りづらかつたりと、課題も多く散見されたのも事実で、今後これらの課題を更にブラッシュアップし、「オンライン版アントレ・キッズ

ズ」を福井YEGの一つのブランドにできればと思います。

今回の「オンライン版アントレ・キッズ」を終えて、とある学校の先生から、「今回コロナ禍が落ち着き、また通常の対面式の授業になつても、今回のようなオンラインでの手法は今後増えてくると思われます。そのためにも、私たち教師もこれを一過性のものではなく、積極的に活用し、慣れていく事が大事だと痛感しました。」というお言葉をいただきました。



令和2年11月20日～21日の2日間、大分県大分市において、第38回全国会長研修会先憂後楽己を磨け！次代を創る想いはひとつ「豊後の國府内おおいた塾」が開催されました。

全国から令和3年度会長予定者をはじめ、令和2年度会長、県連会長、事務局並びに熱意をもつた会員が参加できる研修会です。コロナ禍での開催ということで、オンラインでの参加も急遽可能になりました。福井YEGからも10名のメンバーが登録し、現地及びオンラインにて参加しました。

## 第38回近畿ブロック大会 はじまりの地 かしはら大会

当初、奈良県橿原市にて、令和2年9月18日。

19日に開催が予定されていた第38回近畿ブロック大会はじまりの地 かしはら大会は、新型コロナ感染症の影響もあり、12月4日に開催が延期になりました。また、開催方法もオンラインに変更となりました。

今回のオンライン版アントレ・キッズを通して、福井YEGのキャリア教育に新たな発見や可能性を見出せたのではないかと思います。

福井YEGでは、全国大会に向けて想いを共有できたらと考え、福井商工会議所会議室にてパブリックビューイングを開催しました。パブリックビューイング会場での参加人数は15名ほどではありましたが、大会会長たちの、熱い想いのこもった挨拶に心打たれました。

## 第38回全国会長研修会 先憂後楽 己を磨け！次代を創る想いはひとつ 「豊後の國府内おおいた塾」

## 第37回福井県商工会議所青年部連合会 会員大会勝山大会

令和3年2月13日に第37回福井県商工会議所青年部連合会会員大会勝山大会が開催されました。代議員総会を含む全てのスケジュールがオンライン開催と急遽変更になりました。新型コロナ感染症拡大により、福井県が新型コロナ感染拡大警報を出してからです。

福井YEGではリライムにおいて、パブリックビューイングの設えをしましたが、新型コロナ感染拡大警報によりパブリックビューイング会場での参加は25名ほどでした。今年度は大会がほぼオンライン開催となつたことで、参加がしやすい反面、他単会YEGメンバーとの交流ができなかつたのは残念に思います。人に会うことの大しさを身に染みる大会となりました。

## 日本商工会議所青年部役員会開催

令和2年7月11日に、ハピリンホールにて日本商工会議所青年部第289回役員会が開催され、福井YEGが設えを担当いたしました。

コロナ禍の中、初めての対面開催となる役員会とのことで、コロナ対策等どうすべきか分からぬ中で準備が進んでいきました。親会と日本商工会議所の考え方の違いもあり、受入れ人数の制限や大型の空気清浄機の搬入等、かなり無理難題もありました。最終的にはコロナ対策として、参加者の事前検温、サーモグラフィーでの入口前検温、入場後のハンディ検温、消毒作業の徹底と、厳重な対策を行うことで無事に開催できました。各地域の役員会を控えているYEGメンバーの視察もあり、全国大会しあわせ福井さばえ大会に向けてのコロナ対策の礎を築けたと思います。役員会後には日本YEG米良会長から設えに対する謝辞を頂きました。

日本商工会議所青年部

# 第40回 全国大会 しあわせ福井さばえ大会

大会テーマ

**Discover Tomorrow**

～継ぎ 紡ぎ 繋げる しあわせのもと～



1日目



大会初日には各単会による分科会、第40回全国大会特別事業、開会セレモニーが行われました。



第40回全国大会特別事業として、今後 YEG は 5 年先を見据えて中期ビジョンの作成、市政に対する政策提言をすることで単会のプランディングをすることが必要、そしてその作り上げた単会プランディングを活かして、地域活性化を行う。

そうすることによって YEG が地域に必要とされ、価値が高まるのではないか、ということを福井県内の 7 単会の取組を交えながらディスカッションしていきました。

例年は大懇親会があり、全国から集った青年経済人の交流の場となっておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となり、代わりに開会セレモニーが行われました。

全国の YEG 会員が一つになれるよう、各ブロックの代表理事等が入場行進し米良会長とエアハイタッチ等をしていただいたり、全国 415 単会のスローガンを越前和紙に手書きしたものを持ちにかけて、世界でひとつだけのしあわせ縫を作り上げる設えなどがありました。



2日目



大会2日目には会員総会・OGOB全国大会引継ぎ式・オンライン物産展・記念講演会・記念式典とイベントが盛り沢山の大会となりました。



日本YEG副会長の鯖江YEG田辺一雄君の開会宣言から始まり続いて日本YEG米良充朝会長からの挨拶が行われ熱いメッセージが全国のYEGメンバーに送されました。

そして会員総会の議題が進む中、令和4年度(2022年度)日本商工会議所青年部会長候補者選任(案)について話し合いがなされ鯖江YEGの西村昭宏君が日本商工会議所青年部会長として選任されました。

次に、日本YEG第2回OB・OG全国大会の引継ぎ式が行われ鯖江YEGOB会川上広志会長からご挨拶をして頂きました。

令和3年度全国大会開催地の香川県連に大会旗の引継ぎをしました。



会員総会が終了し、オンライン物産展が始りました。鯖江YEGの大橋里奈さんと永富三基君がプレゼンターを務め、福井の地場産業である和紙から作られた抗菌マスクケースや鯖江を代表する眼鏡、そして地元の地酒や料理がそれぞれ紹介されました。福井県の商品や食品の魅力が伝わったのではないでしょうか。

そして記念講演会が行われ、講師には福井県鯖江市出身者である株式会社サイバーエージェント藤田晋社長に登壇して頂き「サイバーエージェントが成功する仕組みとこれからの時代に求められるリーダーシップとは」を題材に、若き経営者からの冷静で鋭い経営観についての話をして頂きました。

福井放送の阿部真由美アナウンサーとのトークセッションも非常に盛り上がり、藤田社長の素の人間性も垣間見れたのではないでしょうか。

記念講演会も終わり、記念式典が行われました。今大会のメインテーマソングを歌っているヒナタカコさんによるライブから始まり地元のキッズダンサーの皆さんによるパフォーマンスは非常に魅力的で独創的な雰囲気に会場が包まれました。

しあわせ福井さばえ大会大会会長 西村昭宏君の入場から始まり大会実行委員長による開会宣言によりスタートしました。

式典挨拶では日本YEG米良会長による挨拶、西村昭宏大会会長による挨拶、菊県連会長より挨拶が行われました。次に来賓祝辞。福井県知事杉本達治様、鯖江市長佐々木勝久様よりそれぞれ祝辞を頂きました。記念式典では、ビジネスプランコンテストの最優秀者表彰や、YEG大賞の発表などもありました。



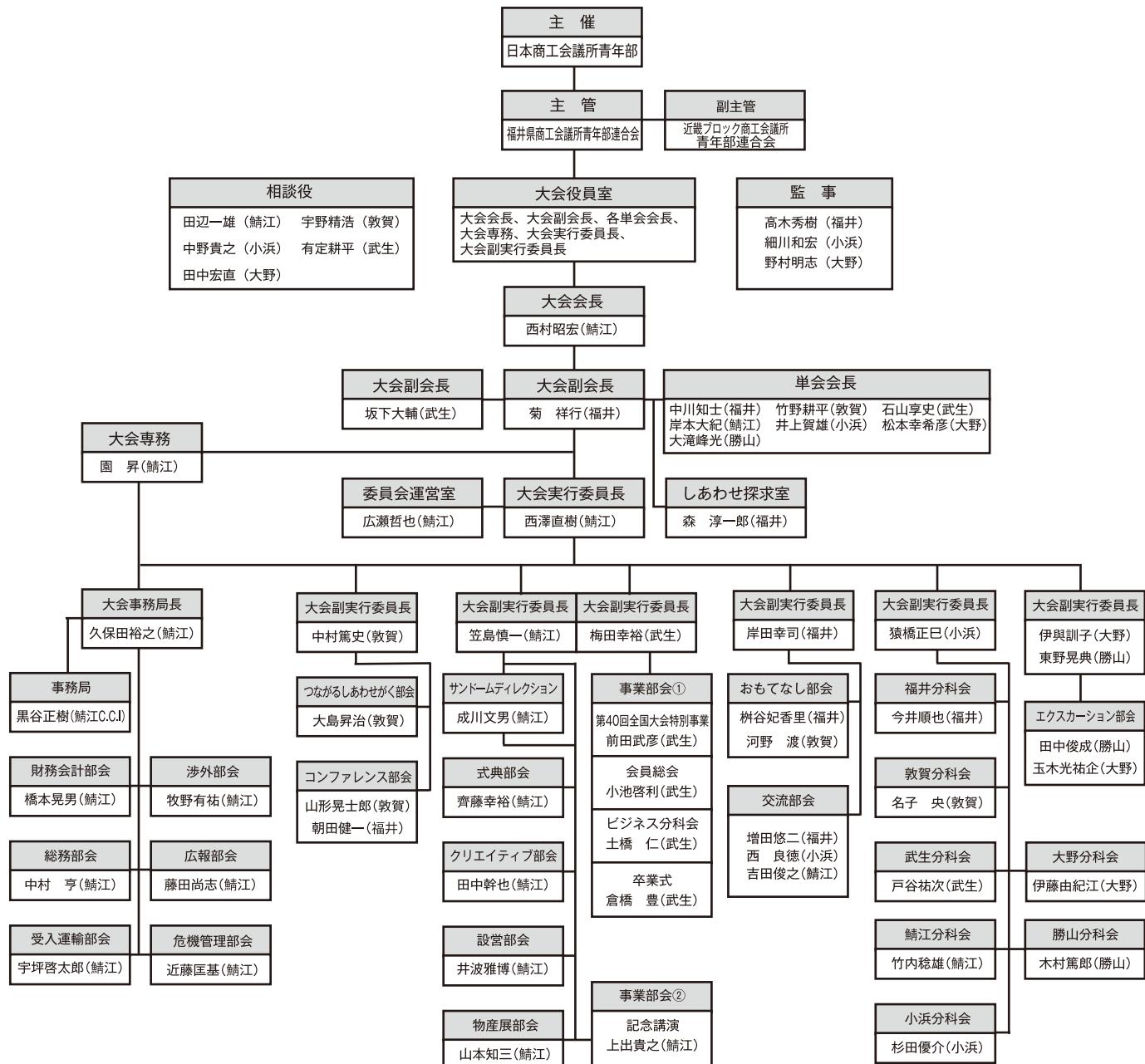
本当は、このコロナがなければ、鯖江のしあわせ福井さばえ大会のあらゆる制限がなくなり、思った通りの開催が出来た筈です。

しかし、あの時こうしておけばよかったという後悔ではなく福井県連を始めとする、鯖江YEG、全国大会実行委員会のメンバーの1つ1つの決断の集大成がこのしあわせ福井さばえ大会である、そう思って頂きたいと我々は感じています。

多くのご協力と、たくさんの応援ありがとうございました！

日本商工会議所青年部  
第40回全国大会  
しあわせ福井さばえ大会

実行委員会組織図





## 全国大会を振り返つて

大会副実行委員長 岸田 幸司



## 全国大会を振り返つて

交流部会 増田 悠一

おいて黒田会頭との表敬訪問と、福井商工会議所において伊東会頭との表敬訪問で同行させて頂きました。また、最後に佐佳枝廻社で日本商工会議所青年部第40回全国大会し、あわせ福井さばえ大会の成功祈願を行いました。成功祈願を行いました佐佳枝廻社を段取りさせて頂きましたが、当日は穏やかで、お天気にも恵まれ、実行委員会ではO.B.O.Gサロンを設える交流部の部会長を務めました。イメージがわからぬまま視察に行つたぬまづ大会では、O.B.O.Gサロンを「O.B.O.G全国大会」と位置づけ、青年部時代さながらの開会セレモニー、大会旗の引継ぎ式を開催。交流会も大盛り上がり、閉会後に大懇親会場へ移動する参加者の若さに満ちた表情を見て、「来年は自分たちが」とスイッチが入ったのを覚えています。

今年度はコロナウイルスの影響で打ち合わせも思うように進まない中、皆で知恵を出し合い、参加者に安心して満足いただける企画を作り上げました。結果として交流会は中止となりましたが、状況が常に変化する中、最後までその時々のベストを模索し、オンラインで全国の皆さん前で厳かな引継ぎ式を披露できましたことは本当にうれしく思っています。



## 全国大会を振り返つて

おもてなし部会 榊谷妃香里

全国大会ではおもてなし部会と交流部会を担当する副実行委員長をさせていただきました。2年前から準備にあたり、全国から参加されるYEGメンバーをおもてなしするため色々な準備をしてきました。当日はコロナの影響もあり完全オンラインの全国大会になってしまったが、それでも今できる最大限のことは出来たかなと思います。

改めて振り返ると反省点も多少ありますが、この大会を通して得た経験などをこれから先の色々な事業に役立てなければいけないかなと思います。

全国大会に関わった皆様、大変お疲れ様でございました。



## コンファレンス部会報告

コンファレンス部会 朝田 健一

令和3年3月3日水曜日の午後から、米良会長を始めとする令和2年度日本商工会議所青年部執行部の皆様と全国大会実行委員会メンバーで鯖江商工会議所に

この度、日本商工会議所青年部第40回全国大会しあわせ福井さばえ大会において、おもてなし部会・部会長を経験させていただきました。

無事大会が終わり、改めてこの大会を振り返ると、本当に唯一無二の大会ではなかつたかと思います。コロナ禍で明日の状況さえもわからない中、大会に向けて準備を進めては振り出しに戻り、また違う選択を強いられるというような厳しい状況でした。そんな中私たちはコロナ禍を見越して早めの決断を心がけてきました。今回、決断をするということの難しさに直面し、自分の中にはない選択をせざるを得なかつたメンバーもたくさんいたのではないかと思います。全国のYEGメンバーの皆様に福井に来ていただけると信じ、準備を進めて参りましたが、惜しくもその願いは叶いませんでした。しかし、この大会で得たものは計り知れません。

全国大会を通してかかわつたすべての皆様に、この場をお借り御礼申し上げます。そして、大会会長が花道を歩く姿を見られてよかったです。YEGに誘っていたいたこと、また実行委員会メンバーとしてこの大会に携われたことに感謝しつつ、今後の成長の糧にしていく所存です。

本来でしたら、3つの大きな事業や会議、日本商工会議所青年部の各委員会の会議を所狭しに綿密なタイムスケジュールをたてて行う予定でしたが、令和2年度、3年度ブロック別連絡会議以外はzoom会議となりまして会場を使わなくなつたことは寂しかつたです。しかし、これがニユーノーマルのやり方だと思えば、これからは会議運営の道筋をつけることができたと思います。今後、検証して問題点などを一つずつクリアしながらより良い会議運営を行つていくことを切に願います。

## 【第1部 各地のキャリア教育事業紹介・ディスカッション】

既にキャリア教育や青少年系に事業に取り組んでいる全国に単会などからコンテンツをLIVE配信で紹介してもらいました。その後福井YEGのメンバーによる日常の幸せと教育をテーマとしたディスカッションを行い日常にある幸せを見つけるヒントを考えてもらい第2部のしあわせクエストに繋げていきました。



### 福井 分科会 分科会Ⅰ

#### 【第2部 一乗谷朝倉氏遺跡しあわせクエスト】

一乗谷朝倉氏遺跡は福井県「福井しあわせセレクション」において「しあわせの聖地」とされており、全国で6例しかない国の三重指定になっています。

参加者の方々にはオンラインで復原町並みにいる当時の町人たちの様子を見ながら町を歩き、武将や姫などの登場人物の質問に回答して、様々な疑似体験を交えながらしあわせを探すクエストを行ってもらいました。



### 福井 分科会 分科会Ⅱ

#### 【第2部 福井まち歩きしあわせクエスト】

福井市は、戦国時代には朝倉家や柴田勝家公、江戸時代には越前松平家の城下町として栄え、大本山永平寺の御膝元として独自の食文化を育み、長年愛されてきた醤油・味噌、汐うに・和菓子などの老舗企業があります。また、徳川家康の次男、結城秀康が築城した福井城址、福井藩主松平家の別邸で国の名勝にも指定されている養浩館庭園のほか、数多くの名所旧跡があります。これらの食の老舗や歴史スポットを舞台にオンライン町歩きを行い、観光や買い物をしながらスポットにまつわるクエストに回答し、しあわせを探すクエストを行いました。



### ★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★ 全国大会福井分科会を終えて

第40回全国大会しあわせ福井さばえ大会実行委員会  
福井分科会部会長 今井 順也

「分科会って観光して飯食べるやつばかりでつまらないよね。もっとYEGでしかできない分科会をやらないと」この2年前の菊さんの言葉から分科会の企画がスタートしました。ただの観光分科会は出来ないという思いから出来上がった分科会企画がA・一乗谷朝倉氏遺跡で甲冑を着て合戦シーン等のミニ動画撮影や火縄銃発砲の見学、B・1日がかりでキャリア教育の勉強や討論を行うキャリア教育サミット、C・100年企業や歴史スポットを少人数で自由に巡ってクエスト写真を送信するフォトさんぽ、というどれもおそらく全国大会の歴史で類似したものがない独創的な分科会企画でした。

これを今年度、全国大会ONETEAM委員会の大矢委員長、井戸、田中副委員長にコースリーダーとして託し、さあ進めようとしたが、コロナで出鼻をくじかれて「そもそも全国大会本当にやるの?」というメンバーからの疑問に応えることがはじまりでした。

8月頃にはようやく全会員を対象とした第1回目のコース会議がスタートしましたが、参加人数は少なく、福井YEG一丸で分科会を作っている実感はとても無かったです。それでもまず最初に火が付いたのがAコースの井戸リーダー、自分のやりたい分科会像が見えてきたのか、各担当班や朝倉氏遺跡の岸田会長とも打ち合わせを重ね、11月頃からはグループLINEでも毎日やりとりが始まり、その熱意に呼応して参加メンバーも増え、

素晴らしい運営マニュアルも出来てきました。Cコースの田中リーダーもまち系事業のベテランとして皆を引っ張り、コースメンバーと一体となつて企画を詰めていきました。心配だったのはBコースですが、私自身も成功する絵が見えず、大矢リーダーもどう進めるべきか迷いがありました。そんな中、忘れもしない2月8日の全国大会実行委員会ですが、緊急事態宣言の影響で、現地参加の分科会が出来なくなるという話が出ました。実はこの頃にはCコースのまちあるきもコロナ禍でやるべきでない、と田中リーダー自身が考えていたこともあり、私は迷わず分科会のオンライン再構築を決めて議案を作成、2月10日の役員会終了後には竹内委員長の提案でリライムで夜中3時まで分科会の議論を行い、原点であるしわせをテーマにしつつ、これまで構築した強みを活かした2コースの分科会案ができました。これが出来てからの動きはすごかったです。各コースでも連日連夜やりとりが進み、佐藤副会長、竹内委員長をはじめとした分科会統括班も寝る間を惜しんで動いてくれました。そして分科会当日も平日日中にも関わらず約60名のメンバーが参画し、まさに福井YEG一丸の分科会が出来上がりました。当日運営でも多少の問題は発生しましたが、そんなことはどうでもいいと思えるほど、皆で分科会を作り上げることが出来たことがしあわせでした。

ちなみに私自身もATを見ると分科会以前5週間だけで30回以上の会議等があり、全国大会絡みのLINEグループが10以上あつてほぼ毎日やりとりや、88名の分科会登録者への連絡など、仕事に支障をきたすほどYEGに打ち込むことが出来ました。笑。

Cコースの田中リーダーもまち系事業のベテランとして皆を引っ張り、コースメンバーと一体となつて企画を詰めていきました。心配だったのはBコースですが、私自身も成功する絵が見えず、大矢リーダーもどう進めるべきか迷いがありました。そんな中、忘れもしない2月8日の全国大会実行委員会ですが、緊急事態宣言の影響で、現地参加の分科会が出来なくなるという話が出ました。実はこの頃にはCコースのまちあるきもコロナ禍でやるべきでない、と田中リーダー自身が考えていたこともあり、私は迷わず分科会のオンライン再構築を決めて議案を作成、2月10日の役員会終了後には竹内委員長の提案でリライムで夜中3時まで分科会の議論を行い、原点であるしわせをテーマにしつつ、これまで構築した強みを活かした2コースの分科会案ができました。これが出来てからの動きはすごかったです。各コースでも連日連夜やりとりが進み、佐藤副会長、竹内委員長をはじめとした分科会統括班も寝る間を惜しんで動いてくれました。そして分科会当日も平日日中にも関わらず約60名のメンバーが参画し、まさに福井YEG一丸の分科会が出来上がりました。当日運営でも多少の問題は発生しましたが、そんなことはどうでもいいと思えるほど、皆で分科会を作り上げることが出来たことがしあわせでした。

心細かった。

YEG入会2年目で分科会Aコースリーダーとなりましたが、例会や事業も担当したことが無かった僕が今年度初めに感じていたことです。

全国大会って？分科会とは？先ずはそこからで話したことさえない運営メンバー、コロナ禍で思う様に会議もできない。自分にできるのだろうかと不安感だけが募っていました。

全国大会自体も開催できるのか分からず時間が過ぎていきましたが、8月にやっと第一回目の運営会議が行えました。分科会は本当に開催できるのか。不透明なままで、とにかく計画は進めるしかない。何をどうしていいか分からず焦っています。でも運営会議を重ねるごとに参加者が増えていき、個別にアドバイスしてくれる方もいました。寒い中でも事前撮影に参加して下さった方々。素晴らしい運営マニュアルを作つて下さった柴田サブリーダー。この分科会を成功させたいと一人一人が様々な形で力を出し合い、メンバー

配信ギリギリまでリハーサルを行い迎えた本番、不安は無かつたです。前夜もベッドに入つてすぐに寝られました。運営メンバーの情熱を感じ安心したからだと思います。そしてあつという間に過ぎた100分。終わつた後は達成感よりも寂しい気持ちになりました。できれば盛大に打ち上げしたかった。何だかんだと大変でしたが楽しんでいたのだなと今になると思います。分科会運営を通して多くの方と話し、意見をもらい、積み上げ構築し、成し遂げられた。この1年は福井YEGの凄さと情熱を体感し、僕自身もいろんな事を教えてもらえる年になりました。ご協力して頂いた皆様、本当にありがとうございました！

## 「分科会を終えて」

福井分科会第2部 I コースリーダー

井戸 啓太

変更になつたこと、分科会の構想を練りなおす必要があるということでした。やつとここまできたのに：僕は動搖しましたが、今井副会長は翌日には再構築した企画書を作成し翌々日には役員会にて報告していました。その時の今井さんの言葉は穏やかな口調でしたがすごく熱い想いが込められていました。この時に福井YEGは一丸となつて決起したように感じました。ここからが本当に凄かったです！分科会本番3週間前で企画再構築、人員再配置、役割、配役、配信方法、台本作り、と皆さんのが切り替えの早さ、対応力、機動力、そして団結力。連日鳴りやまない各コースでのLINEでのやり取りが続き、僕はリーダーとは名ばかりで皆さんに付いていくのがやつとでした。どんな状況下でも最善を尽くす。運営メンバー全員が中川会長の「現改突破」「愛と情熱を持って取り組む」のお言葉を胸に留めながら下を向くことなく取り組みました。

開催1ヶ月前、企画が完成に近づいてきた手応えがあり少し安堵していた頃です。2月8日に今井副会長から緊急会議の連絡がありました。会議で告げられたのは、全国大会が完全オンラインに

## 「分科会を終えて」

福井分科会第1部コースリーダー

大矢 学

一年間YBI室が考えててくれた分科会を受け渡されて、運営を行う。当初のミッションは、自分たちが作り上げるものではなく、悪い言い方をすれば、決まったことを行うだけ。

少し面白みがないとさえ感じました。

しかし、YBI室の会議に初参加した時のメンバーの話を聞いて、全てのコースに1年間の熱い思いが込められていて、よし！やるぞ！という気持ちになつたのがつい最近のことだと思います。

全国大会のB分科会は、未来の子供たちのキャリア教育を考える分科会

当初は全国のキャリア教育を行う単会の情報を持ち寄り、特設ブースで情報を共有し、語り合い、文科省の長田先生を講師に招き、キャリア教育の現状や課題を全体に落とし込み、YEGとして未来の子供たちに向け何をするべきかをキャラコーカイネーター等も交え考え方を示す。対面で一日かけたキャリア教育サミットを賑わかに進まず、第一回運営会議は8月25日に行われました。

コロナ禍の中、対面で会議を行うのが難しい期間が続き、自分も含め、メンバーの皆さんもなかなか熱が入らない状況、そんな状況にしてしまいました。

運営会議も数を重ねますが、全国大会自体の運用状況も目まぐるしく変わる中、当分科会もハイブリッド開催に変更、それに伴い段取りや内容も変わったのが12月中旬と、後手後手になってしましました。多くの単会の協力も必要とした分科会の為、運

營メンバーで手分けをしてキャリア教育事業を行っている単会に連絡を取る中、コロナの波がまた押し寄せ、完全オンライン分科会に変更。それに伴い講師の長田氏の講演が不可能となり、大会本番まで2か月弱での再構築を余儀なくされ、3歩進んで2歩下がるような状況でした。

完全オンライン開催にすることで動きやすくなつたこともあり、ようやく運営会議も動き出し、この状況で確定かと思われましたが、全国大会が残り1か月を切った時点で全ての分科会をオンライン対応にするとのことで、各コースをまとめて開催する方向にまたもや変更。

しかし、ここから福井YEG一丸で分科会を構築。B分科会は各地の事例も踏まえ、未来の幸せを考えるディスカッション形式の分科会に変更となりました。当初行いたかったことはできなかつたのですが、協力いただいた単会から、必ずまた集まつてキャリアサミットを行いましょうと激励をもらえたのはとても嬉しかつたです。最後の最後で沢山の方の力を借りて分科会が行えて本当に感謝しています。苦労も多かったです。『しあわせ』沢山感じることが出来ました。ありがとうございました。

## 「分科会を終えて」

福井分科会第2部IIコースリーダー

田中 日奈子

当初の分科会Cコースとしては、食の100年企業を含めた福井市内のあらゆるスポットを少人数チームで写真クエストをクリアしながらまちを巡る、というものの。福井駅を中心に、福井北エリア・駅前エリア・福井東エリア・片町浜町エリア・福

井南足羽エリアで区分し、運営メンバーでそれぞれのエリアを担当分けして各スポットやクエスト内容を考案していくことから始めました。これまでのまち歩きのようにコースを決めるのではなく、クエストをクリアしながら参加者自身が次のスポットを目指していくもの。しかし、この企画内容が実際に福井のまちの人々に不安を抱かせてしまうのは…という懸念がずっと拭えませんでした。なので、分科会の完全オンラインが決定した時は、正直安堵感がありました。

全国大会3月5日6日のプログラムが完全オンラインと通達されたのは2月9日で本番当日まで1ヶ月を切っていました。2月役員会内で役員の皆さんのご意見を伺う機会を得て役員会後に分科会議を開催し、3つのコースを1つのコースに仕立てることになり、Cコースとしても、これまでの内容を再構築することになりました。実質2週間ほどの短い準備期間でしたが、運営メンバーの皆さんお一人お一人のご尽力により、これまでの考察を生かして企画内容を再構築することが出来ました。エリアごとに入念な口ケハンや考察を最後まで繰り返し、ベストを尽くして頂けたことの賜物だと思います。開催当日、運営内容の変更もありましたが臨機応変な対応をして頂き、参加者の方々をはじめ、運営メンバーからも「楽しかった！」という言葉が聞けたことが何よりで、本当に嬉しく有り難く思います。

運営や企画内容においても後手後手になりがちで至らぬリーダーでしたが、嬉しい気持ちで分科会を無事に終えられたことは、運営メンバーの皆さんや協力いただいた方々のおかげだと思いました。本当にありがとうございました！

## 令和2年度 委員長コメント



総務委員会  
委員長  
宮田由紀恵

令和2年度総務委員会の委員長を務めさせていただきました宮田由紀恵です。入会5年目にして初めての委員長職、総務委員会は毎年同様のものが多く、歴代の総務委員長が残してくれた資料はあるわけですから、見様見真似でどうにかなるだろうと軽く引き受けてしましました。が、年度が始まるとから広がりをみせつつあつた新型コロナ感染症拡大により、活動自粛、対面を避けるためwebシステムを使った総会、事業、役員会の設えなど、今までにないことに奮闘することが多い一年になるとは、引き受ける時には想像もしていませんでした。また、全国大会がある年度といふことで、委員会数が多く、副委員長が二人しかいないにも関わらず、職務分掌の内容は例年と変わることもなく、常に職務に追われていたように思います。

経験も知識も豊富ではない私が福井YEGの為にできることは何だろうか。どうしたら福井YEGのメンバーにメリットがあるだろうか。対面が喜ばれない時代にできることは何だろうか。女性の視点から気付け、伝えることができるのではないかだろうか。そう考え行動してきました。諸

『現改突破』していったように思います。  
近畿ブロック大会、県連会員大会、そして全国大会までもすべてオンラインでの開催となり、直接会つてコミュニケーションとの大事さもわかると同時に、遠くの方と気軽に交流ができるというのはオンラインならではで、使いようによつては今後のYEG活動には不可欠になるものではないでしょうか。

総務委員長にとお声がけいただきました天野副会長並びに、清水副委員長と水切副委員長、委員会メンバーに感謝申し上げます。今までいろいろ方に助けられた人生を歩んできましたが、今年度ほど多くの方に助けられたことはないのではと思ひます。いろんな場面でしかるべき方が手を差し伸べてくださったお陰で何とか一年やりきることができました。ようやく安堵感と充実感を感じております。HPやSNSの更新関連の管理が十分にできていなかつたのは反省点ですが…。

福井YEGのことを考え、知ることができた一年となりました。総務委員長での経験を生かして、残りのYEGライフをより一層楽しんでいく所存です。

先輩方からは自分が思うようにやればいいとアドバイスをいただき、自分なりの総務委員長を全うできたのではないかと思つております。それと同時に、昨年度には想像もしていなかつた、予測不能な事態と変化を受け入れていくことに、常に



ポテンシャル発掘委員会  
委員長  
北出慎吾

YEG会長、直前会長、監事、ようやく肩の荷が下りたと思つた矢先、11月頃天野副会長から電話があり、…「新入会員委員会の委員長を引き受けてくれませんか?会長経験者だからこそ、大事な新入会員を預けたいのです。」  
こんなこと言われたら、断ることが出来ません。ましてや天野副会長はYEG同期入会メンバーが少なくなってきた中で天野副会長の頼み、そして中川会長は、私が会長時代に日本YEGに出向してもらい、副会长時代にはキヤリアの委員長をしてもらつたラブ&パッション男。一肌脱ぐかという氣概で今年度、新入会員委員会であるポテンシャル発掘委員会の委員長を務めました。  
副委員長は竹内耕一郎君、そして堀江成禎君にお願いし、委員会活動をスタートさせました。ポテンシャル発掘委員会の活動目的は、新入会員のポテンシャルを発掘し次世代を支えるYEGの要となる人物を育成、輩出することになりました。

しかし、新型コロナウイルスという、目に見えないウイルスの脅威に晒され、総会、例会、委員会とリアルで開催することが出来ず、ただただ新入会員メンバーには寂しい思いをさせたと思います。せめて委員会の中だけでもつながりを強化しようとメンバー同士あだ名で呼び合う、人となりを知るための交流を行うなど様々な工夫を行いま

した。

そんな中で行われた、『だいじょうぶだあ』『9月だヨ！全員集合』9月例会、そして『絶対に笑ってはいけない卒業式＆あじさい会との交流会』3月例会。今までにない例会構築をしようと

初めての企画・運営に戸惑いながらもポテンシャル溢れる動きで、会員同士そして、あじさい会との交流を深めることができました。新入会員とは思えないほどよく動いてくれました。みんな凄い!!

まさしくポテンシャルが高いメンバーが集まつたなあと思っています。そして次年度の役員にも数名選ばれました。近い将来のメンバーの活躍が非常に楽しみなのは言うまでもありません。

委員会活動を通して様々なことを経験させて頂きましたが、副会長、両副委員長には無茶ぶりで色々と助けて頂きました。本当にありがとうございました。

新入会員の皆さん、これから福井YEGをぜひ盛り上げてください。福井の活性化には我々青年経済人の力が必要です。皆さんの中から会長が輩出されることを楽しみにしています！1年間ありがとうございました。

そんな中、委員会ではWEB会議システムZOOMを活用して、完全オンライン委員会を開催したり、ハイブリット型の委員会を開催したりしました。これまででは全く考えられない委員会のやり方でしたが、何度も開催することで、ZOOMを活用することが当たり前になり、出張先など遠い場所からでも参加ができるWEB会議のメリットを実感するに至りました。

また、事業の構築もコロナ禍にありながら、3つの事業・例会を構築することができました。その3つのテーマも「ZOOMを活用したオンラインミーティング（WEB会議事業）」、「中小企業のデジタルシフトによる先進事例を学ぶ（1月例会）」、「これから福井の経済を考える（1月例会）」ということで、ちょっとだけ未来を創造（想像）することができる事業・例会構築であつたと思っています。

そんな願いを込めて、7月例会をキックオフとして、何度もコラボレーションミーティングを重ねコラボレーション事業を進めてきました。12月例会においては、コラボレーション事業の構築を進めていた3つのユニットごとに、プロジェクトのプレゼンを行いました。どれも甲乙つけがたい

メンバーのおかげです。特に、副委員長にはいろとご尽力いただき、本当に感謝申し上げます。1年間、ありがとうございました。

## 未来創造委員会

委員長



小寺洋太郎

「未来をちょっとだけ創造（想像）できる委員会にしたい・事業を構築していきたい」という想いの元、「未来創造委員会」と名付けスタートしました。

口ナ围イルスの感染拡大は、当初予定していた委員会活動・事業構築予定を大きく変更せざるを得ませんでした。

そんな中、委員会ではWEB会議システムZOOMを活用して、完全オンライン委員会を開催したり、ハイブリット型の委員会を開催したりしました。これまででは全く考えられない委員会のやり方でしたが、何度も開催することで、ZOOMを活用することが当たり前になり、出張先など遠い場所からでも参加ができるWEB会議のメリットを実感するに至りました。

また、事業の構築もコロナ禍にありながら、3つの事業・例会を構築することができました。その3つのテーマも「ZOOMを活用したオンラインミーティング（WEB会議事業）」、「中小企業のデジタルシフトによる先進事例を学ぶ（1月例会）」、「これから福井の経済を考える（1月例会）」ということで、ちょっとだけ未来を創造（想像）することができる事業・例会構築であつたと思っています。

そんな願いを込めて、7月例会をキックオフとして、何度もコラボレーションミーティングを重ねコラボレーション事業を進めてきました。12月例会においては、コラボレーション事業の構築を進めていた3つのユニットごとに、プロジェクトのプレゼンを行いました。どれも甲乙つけがたい

## インタボレーシヨン委員会

委員長



中嶋和弘

今年は、ありとあらゆる場面でコロナに翻弄された年でした。そんな中で、これまでの福井YEGの既存事業ではないコラボレーション事業を実施していくのは非常に大変でした。

しかし、事業担当の嶋崎副委員長を中心に、委員会メンバー、コラボ事業参加者の積極的な協力をいただき、なんとかやりきることができました。関わってくれた皆様には感謝しかありません。今年、よく聞かれたのは委員会の名前の由来です。「インタボレーション」とはインターナショナル（国際的な）とコラボレーション（共同制作、共同事業）を組み合わせた造語です。現状の自社や地域という枠内で満足することなく、広い視野を持って新しい未来を共に築いていく、という願いを込めています。

そんな願いを込めて、7月例会をキックオフとして、何度もコラボレーションミーティングを重ねコラボレーション事業を進めてきました。12月例会においては、コラボレーション事業の構築を進めていた3つのユニットごとに、プロジェクトのプレゼンを行いました。どれも甲乙つけがたい

素晴らしいプロジェクトで、プレゼンを聞いてて感動で心が打たれました。

コラボレーション事業の総括ですが、異業種間の交流や商品開発のみに終始せず、中期ビジョンに基づき、新たな学びの要素も加えながら実現化に努めることで、社業の一助につなげることを目指しました。特にSDGsの理念を取り入れ、持続可能なコラボレーション商品・サービス開発を目指しました。

反省点をあげるとすると、コラボレーションミーティングでは、残念ながら一部だけの会員参加に留まってしまったことになります。

しかし、多くの予算と時間を費やした事業であり、様々な制約条件の中でも一定の事業結果を残せたと感じています。本年度は着想と構想段階で終えることとなりましたが、これらを次年度の事業や活動に繋げていただくことを願います。

あとは、福井YEG名物開発プロジェクト全国大会物産展出展として、「かにの殻出しおでん」を出展しようと思っていましたが、全国大会の完全オンライン化によって断念せざるを得なかつたのは残念でした。

あとは、コロナで実施不可となりましたが、当委員会では中川会長の強い希望もありハワイでの海外研修事業の構想がありました。いつかハワイでの海外研修事業を実施したいという希望も込めて、本記事にそういう構想があつたことを残しておきます。



にぎわい創成委員会

委員長 竹内亨

令和2年度を振り返ると社会の影響をとても受けた年度だと誰しも感じる年度だったと思います。今年度、私は昨年度と同じ委員会の委員長として昨年度よりも発展をさせることをシンプルに考えれば良いと高を括っていました。その為の予算会議や委員会メンバーの選出、そしてスムーズに計画が進められるように各機関との連絡のやり取りを始めたところに新型コロナ感染症という社会が一変する事態となり、世界中の人々に衝撃を与えております。YEG活動だけを取り上げても中川会長より示された職務分掌をひとつも行うことが出来ませんでした。

最後に私のこのYEG活動で感じたことは自分

の無力さしか感じない一年でした。無力とは悲観的にとらえるか、前向きにとらえるかで大きく意味が変わります。無力だから支えてくれる方がいた、また、無力だから感じる事があり、目を向けることがあつた。そして素直に感謝ができ福井YEGとは無力な人でも助けてくれる素敵な環境だという事を知れる一年でした。YEGで関わった全ての方に感謝申し上げます。有難うございました。

う委員会の状況で、委員会の出席率は70%近くあり、出欠の連絡においては、ほとんどの委員会メンバーから何らかの方法で連絡を頂いておりました。感謝しかありません。また、人数が増えていくという不思議な現象も起きておりました。

委員会として考えたのが、2月例会の24時間例会という私が知る限りではこれまでの『まちづくり系の委員会』としては異例の例会構築になつたと思っております。参加者の対象をYEG会員のみにし、24時間例会を開催し基本的にはWEBの





**アンビシャスキャリア  
委員会**



委員長

田中俊之

**全国大会交流おもてなし  
委員会**



委員長

佐々木俊一

よりもこの「オンラインアントレ・キッズ」を受講してくれた学校や子どもたちのためにも、この事業を何としても「正解にする」ことは私の責務でもありました。

子どもたちに一方的に伝えるだけの事業ではなく、子どもたちと同じ目線に立ち、共に成長していくような事業を考えいましたが、その矢先に、新型コロナウイルス感染拡大の影響で事業全体を見直す事態となりました。

福井YEGのキャリア教育事業は、どうしても外部との接觸機会が多いため、早急な非接触型での事業構築や発信方法などを考へる必要がありました。そんな中手探りで始まつたのが、オンラインでの開催を目指した、「オンラインアントレ・キッズ」事業です。

一見すると今までのアントレキッズを、ただオンラインで行うだけに見て取れますか、講師が現場にいない状況や、画面上でのやり取りしかできない状況は、当初我々が考へていた以上に未知の領域で、これまでの授業内容や体験内容の大幅な変更が求められました。

また、この事業自体に疑問を持つメンバーや、学校側から不安の声をいたいたのも事実で、全てを肯定された事業というわけでもありませんでした。

それでも、共に事業を構築してくれた副委員長をはじめ、担当副会長や委員会メンバー、講師を引き受けてくれた他の委員会メンバー。そして何

たちの歓喜の声や頂いた多くの感謝状。教育現場の先生方から度々頂いた、オンラインを取り入れた教育の必要性の声。今振り返ってみると、この「オンラインアントレ・キッズ」事業は、ひとまずは一つの正解にたどり着けたのではないかと実感しています。

コロナ禍が落ち着き、いつの日か元の日常に戻る日が来る頃には、この「オンラインアントレ・キッズ」は、みなさんの中で忘れ去られてしまう事業になつているかもしれません。

しかし、困難な状況でもアントレキッズを開催できたことは、福井YEGの記録として残り、私自身も今までのどんな事業よりも印象強く記憶に残ると思います。

今後、オンラインでの事業開催が迫られるような困難な社会状況が再度訪れた時、私たちアンビシャスキャリア委員会が構築した「オンラインアントレ・キッズ」事業と、その根底にある、「どんな状況でもアントレキッズを子どもたちに届けたい」という意志が、困難を突破していくきっかけになつていただければ幸いです。

当委員会の一大職務である全国大会開催の前に執筆しなければならないのが大変心苦しいのですが、

年度当初の抱負でも述べましたが、全国大会の開催を通じて、またそれに取り組む活動の中で、今後自分たちがどうなりたい（ありたい）のかを追求していくつもりで委員会を行つてきました。一年間の委員会活動を振り返り、メンバーの皆さんに委員長として最後のメッセージを贈ります。

自身の内面的動機を大事にすることと自分がやりたいことやおもしろいと思えることをする。これによつてどんな舞台でも、せつかくやるんだつたらいつそのこと楽しんでやろう、くらいの気概が持てるようになれるはずです。

フランクな人間的絆を大事にすることと本音でぶつかり、あいつがやるなら俺もやる、と思えるような関係性。これがあれば失敗を恐れずにチャレンジできますし、共に高めあい、なりたい自分になれる（自己実現）はずです。

これらは、何も全国大会にだけ必要なものではなく、今後のYEG活動全般においても通じるものであり、福井YEGの中期ビジョンの実践においても必要なものだと思います。在籍期間中に全国大会という最大級の事業に携わることができたのは貴重で素晴らしい経験ですが、実は全国大会



が終わつてからのことのほうが大事で、そこで真価を問われるのではないか、そんな気がして止みません。

今井副会長、何の小言も言わず、好き勝手やらせてくださいありがとうございます。僕の委員長経験史上、最もやりやすい副会長堂々一位であることには疑いの余地はありません。所々扱いづらさがあったのは自覚しておりますが、全ては「同期のよしみ」の一言でどうかひとつ（笑）

山田副委員長、いまひとつ自信が持てなくて行き詰りそうな時やちょっと空気感がよくなくて困ったなあと思った時、いつも軽快な声掛けで場を進めてくれましたね。その年長のお兄ちゃん的立ち位置と振る舞いに救われました。

増田副委員長、手のかからない本当に「いい子・できる子」でした。全国大会の実行委員会や部会と当委員会の橋渡しは難儀な役目だったと思います。上から叩かれ下から叩かれる状況は心中お察しするばかりでしたが、そのみんなから愛される弟君的な立ち位置と振る舞いに救われました。

自身これで四度目の委員長職を拝命させていただきましたが、やはりこれまでのどの年度とも違う新たな気づきと学びが得られました。面倒なことのほうが圧倒的に多いのですが、その中にひと握り、何事にも代えられないとおしいものがある（これは未だに言葉にできないのですが）、これも委員長の醍醐味であり役得だと思います。

一年間ありがとうございました。

## 全国大会ONE TEAM 委員会

委員長



大矢 学

いことだったと思います。

全国大会が近づくにつれ、各地で行われるPR活動には委員会メンバー以外の方にも協力を頂きました、ありがとうございました。個人的に恐縮ですが、いろいろな人と繋がれたPR活動は今後の財産になります。

令和2年度はコロナ禍ということもあり、身動きの取りにくいスタートとなつてしましました。

全国大会の分科会運営を担う委員会として、全てが初の試みの中、初期段階でうまく意思疎通できなかつたことは委員会メンバーに、各コースに振り分けられた会員メンバーには大変ご迷惑をおかけ致しました。

そんな中、7月に日本YEG役員会がリアル開催を行うということで、設え担当でもあった当委員会や全国大会おもてなし交流委員会メンバーを中心、沢山の会員の方にご協力頂きありがとうございました。

感染症対策を考える事なんて今までなかつたので、全員が不安でした。

結果的にはコロナ禍でも無事に感染者を出すことなく役員会を開催できたことで全国大会に向けて、「やるぞ！」とエンジンが掛かつたような気がしましたし、委員会で考えた感染対策が、令和2年度のスタンダードになつて良かったです。

その後10月の例会に向けて徐々に話し合いの回数も増え、ZOOM会議という新たな手法でも話し合いが進む中、コロナの第2波などで「リアル開催はどうなるのか？」と不安の声がありました。が、井戸副委員長、田中副委員長が各コース開催に向けて常にメンバーを巻き込み、10月例会が感染者0でリアル開催できたことはとても素晴らしい

令和2年度

## 出向者



日本商工会議所青年部

朝田 健一

増えるのはもちろんの事、自分自身の見識が広がりますので、是非出向してみる事をお勧めします！  
1年間、誠にありがとうございました。



日本商工会議所青年部

高木 秀樹

今年度は政策提言委員会として、日本YEGに出向させて頂きました。私自身6年ぶりに同委員会に所属しまして期待を膨らませておりましたが、新型コロナウィルス感染症の影響で活動自粛を余儀なくされました。本来でしたら、毎月1回の委員会や若手国家公務員との交流の場である「故郷の新しい風会議」ができるはずでしたが。けれども、出来る事から前向きにやつしていくのがYEGの素晴らしいところで、ZOOMを使つた委員会開催はもちろんの事、ゲーブルフォームを利用した全国のYEGメンバーに新型コロナウィルス感染症に関するアンケートを行い、これらをまとめた提言書を全国大会しあわせ福井さばえ大会の式典の中の手交式に、日本YEG米良会長から日本商工会議所の三村会頭に渡すという、当委員会で最大のミッショント遂行し、提言書に携わった当委員会メンバー23名の想い、強いては全国のYEGメンバーの想いを伝える事が出来たと実感しております。

最後に、日本YEGに送り出して頂いた福井YEGに改めまして感謝しております。日本YEGのメンバーと交流をしますと、凄い仲間が

本年度は国際ビジネス委員会に出向させていたしましたが、海外渡航などは制限され本来の活動が出来ない一年となりました。

そんなコロナ禍においても9月には「国際教養事業」を名古屋の地でリアルとオンラインを使い過去の日本YEG委員会事業で最高の参加人数546名の参加を頂き実施することが出来ました。

その後は過去の国際事業を取りまとめホームページやマニュアルを作成し次年度以降へ引き継ぐ作業を行っています。

本来は商工会議所発祥の地マルセイユとモナコでの研修事業を行う予定でしたが残念ながら実施出来ませんでした。しかし委員会メンバーでは必ずみんなでモナコに行こうと話し合っています。

通年とは違う形の出向となりましたが全国に大切な仲間が出来たことに変わりはありません。リアルで会える機会が少ないからこそリアルで会うことの大切さを知ることが出来ました。

過去の延長線に未来はない時代、新たな発見や刺激を求め外に飛び出してチャンスを掴みに行きましょう。

今年度、初めて日本YEGに出向させていただきました。日本YEGでは、日本ネットワーク委員会に配属され、本来であれば日本YEGに未加入の単会訪問などを行う予定でした。しかし、新型コロナ感染拡大により、本来行う活動はできず、代わりにZOOMを使って全国の415単会と情報交換会を行うなど、この状況下において出来る事を実施していました。特に、新型コロナの影響で全国の単会がどういう活動をしているのかというのは、とても参考になる話ばかりでした。

過去に日本YEGに出向したことある先輩などから話を聞いていたものの、やはり実際に出向して初めてわかることが多く、今になつて「日本YEG出向するといいよ」と言つていただいた意味・理由がわかつた気がします。

言葉にするとありきたりになってしまいますが、全国に仕事に対してもYEGに対しても熱のあるメンバーと繋がることが出来たというのが一番の財産になりました。また日本YEG委員会などで出張して自分が会社にいないため、仕事を社員に任せざるをえないことが増え、結果として社員の成長につながつたことも良い機会だつたと思います。

新型コロナの影響で十分な活動できませんでしたが、こういった緊急事態における日本YEGの試行錯誤や決断などを近くで見ることが出来たのはとても貴重で、今年度出向して良かったと心か

日本商工会議所青年部  
多田 健太郎

今後は、この経験を活かして福井YEGのために活動できたらと思っています。そして、また機会をいただけるようなら、いろいろと落ち着いた頃に日本YEGに出向したいです。ありがとうございました。



日本商工会議所青年部

細川正人

The Roles and Wishes of YEG

絆の力を擲に込めて

今年度、日本YEG出向を振り返って一番に思っていることがあります。その名のごとく全国3万人以上のメンバーの交流を積極的に促す立場の委員会としておりました。ですがコロナ禍で悉く中止になってしまい、企画毎の準備委員会もオンラインで行い、メンバーとも1月のキックオフ佐世保、沼津全国大会以来、なかなかリアルで会うことさえも許されませんでした。中止にはなりましたが大きい企画二つをここでご紹介します。

まず、在日海外諸団体との交流として国内に拠点を置く海外経済団体との交流会を予定しておりました。心から信頼できるパートナーとメンバーを繋ぐ。実現したかったです。

またYEG2020スポーツイベントと題したゴヤドームを貸し切って全国のメンバーと大規模な大会を設える予定でしたがオリンピック延期に伴い中止になりました。本当に残念です。しかしながら交流会事業として「絆の力を擲に込め

て未来へ」を開催することができました。この事業は全国のYEG単会の横の繋がりを、より強固にし、どんな災害が訪れようとも助け合えるシステムの構築を実現する第一歩になつたと思います。また事業後の交流会も万全な感染対策の元、宮崎シェラトンリゾートにて盛大に開催することができました。参加していただいた皆様、オンライン参加の皆様にも大変喜んでいただき苦労を伴った準備も含め、唯一のいい思い出になりました。二年目の日本出向でYEG活動への熱量やその想いを他単会の様々な立場のメンバーから学ぶことができ、この事を次年度の活動及び自企業や単会メンバーへフィードバックできるよう今後も全力で取り組んでいく所存です。背中を押してくれた中川会長をはじめとするメンバーの皆様、そして一年間共に出向した、高木さん、朝田さん、多田くんに本当に感謝いたします。

多田くんに本当に感謝いたします。

今年度、日本YEG出向を振り返って一番に思っていることがあります。その名のごとく全国3万人以上のメンバーの交流を積極的に促す立場の委員会としておりました。ですがコロナ禍で悉く中止になってしまい、企画毎の準備委員会もオンラインで行い、メンバーとも1月のキックオフ佐世保、沼津全国大会以来、なかなかリアルで会うことさえも許されませんでした。中止にはなりましたが大きい企画二つをここでご紹介します。

私は人見知りが激しく、コミュニケーション能力も乏しいので、福井YEGを飛び出して出向など恐れ多いと感じていましたが、今年度中川会長の基本方針の中の一文『逃げることなく挑み続ける「強い心」、新しい事に積極的に取り組む「行動力」、同じ目標に向かい共に築く「結束力」』現状を打破するために今こそ『現改突破』が求められる。』を胸に、自分自身の発展のため、福井YEGの発展のため、地域の発展のため、令和2年度近畿ブロック商工会議所青年部連合会に出向させていただき、交流班所属として近畿52単会、約4500名メンバーの交流と研鑽につながる事業を構築に取り組んで参りました。

しかし、新型コロナウイルスの流行拡大とそれに伴う緊急事態宣言などがあり、当初予定された委員会開催が難しい状況となり、対面での委員会は7月の和歌山県田辺市、12月の福井県鯖江

することが出来ました。そのときに感じたことは、やっぱり対面で近畿ブロックのYEGメンバーの皆さんと交流できることのおもしろさでした。単会以外での地域でのYEG活動のこと、各地域での経緯などは、会つてお話しすることで伺えたり知ることが出来て、気付きもあるものだなあと感じました。

今年は消化不良とも言える近ブロ出向となつてしましましたが、このご時世に沿いながら新しいYEG活動の一環として学びもありました。本当にありがとうございました。



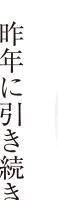
近畿ブロック商工会議所  
青年部連合会

松宮正和



近畿ブロック商工会議所  
青年部連合会

田中奈子



昨年に引き続き、7つを繋ぐ絆委員会の政策提言グループに参加させて頂きました。

委員会としては各地での近畿経済産業局との意見交換会などの開催や風会議の構築などの活動がされました。残念ながら、リアルでの委員会参加はほとんど出来ず、オンラインでの参加でしたが、唯一12月に鯖江商工会議所で開催された近畿ブロック委員会にてリアルで参加させて頂きましたが、やく委員会メンバーの皆さんとお会いしてご挨拶

# 1年間の振り返り

市の2回、そして委員会で構築してきた事業もWEB開催となってしまうなど、交流班所属の私としては達成感の少ない出向となってしまいましてた。

それでも、近畿ブロックへの出向という機会は、福井YEGとは違った環境での委員会参加や、新たな仲間との出会いが沢山あり、自分自身の中の「強い心」「行動力」「結束力」の向上に繋がり、少しではありますが「現改突破」に近づいたのではないかと感じております。この様な貴重な機会をいただき感謝しております。本当にありがとうございました。

今年度の近畿ブロック出向で得た事を、福井YEGや地域へお返しできるよう尽力できればと感じております。

令和2年度、福井県連理事として出向させていたきました。令和2年度は、日本YEG全国大会が福井県で開催される年であり、県連三役を福井YEGから菊県連会長をはじめ、森県連専務理事、上田県連会計が務める、福井YEGにとって意義のある年に、私も県連理事として微力ながら携わらせていただき大変光栄です。

県下7単会から県連役員が一堂に集まる場は大変刺激的であり、各地域で活躍するYEGの同志が地域の枠を越えて交流を重ね、協力し合うことで得られた仲間との絆、事業の成功はかけがえのない喜びであり、YEGが正に連帯の証であるこ

とを改めて実感することが出来ました。県連全体交流事業や全国大会再決起集会は、県連の結束がさらに深まり、より強固なものとなる有意義で印象的な事業でした。

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響が多方面に及んで、様々な事業や県連役員会がコロナ禍で設えが難しい中、各単会の皆様には会場準備や運営等において多大なるご協力をいただき、大変感謝しております。

3月にはいよいよ福井県で日本YEG全国大会が開催されます。初のオンライン開催等、新しい大会様式を全国に先駆けて福井県連が一致団結し、一丸(願)となって全国に示す機会となります。コロナ禍に対応した新しい全国大会のカタチを全国に示し、必ず成功させて福井県連の底力を見せつけたいと思います。

1年間、福井県連に出向させていただき、貴重な経験をさせていただきまして、誠にありがとうございます。

※この原稿は全国大会前に執筆しております



福井県商工会議所  
青年部連合会  
吉田 純也



福井県商工会議所  
青年部連合会  
石間 光太郎

福井県YEG連合会へ初めての出向をさせていただきました。最初は自分の役割がよくわからなかつたのですが、未来ビジョン委員会のメンバーの皆様や先に経験されている福井YEGの方々とご教授いただきまして1年間を過ごさせていただきました。

とを改めて実感することが出来ました。県連全体交流事業や全国大会再決起集会は、県連の結束がさらに深まり、より強固なものとなる有意義で印象的な事業でした。

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響が多方面に及んで、様々な事業や県連役員会がコロナ禍で設えが難しい中、各単会の皆様には会場準備や運営等において多大なるご協力をいただき、大変感謝しております。

3月にはいよいよ福井県で日本YEG全国大会が開催されます。初のオンライン開催等、新しい大会様式を全国に先駆けて福井県連が一致団結し、一丸(願)となって全国に示す機会となります。コロナ禍に対応した新しい全国大会のカタチを全国に示し、必ず成功させて福井県連の底力を見せつけたいと思います。

1年間、福井県連に出向させていただき、貴重な経験をさせていただきまして、誠にありがとうございます。

※この原稿は全国大会前に執筆しております

このように、福井YEGだけでは体験できなかつた貴重な体験を経て、越境し学びを得る事を楽しんでできました。そして、この繋がりによって、福井YEGの11月例会に福井県連の方をお声がけした際に、未来ビジョン委員会のメンバーが快く来ていただきました。

この福井県連の繋がりをもって、これから福井での全国大会をしっかりと準備していきたいと思います。

※この原稿は全国大会前に執筆しております

コロナ禍ということもあり、なかなか実際にお会いするのが難しい中、「ZOOM」を積極的に使つて事業の構築、交流を図る事ができました。特に、8月23日に鰐江で行われました、YEG全体交流事業「しあわせ働き方改革研修&福井一願アゲイン!全国大会への再決起集会」とスペシャルライブ!では会場の設営・準備等を通して、各県連メンバーと交流ができました。更に、11月15日に敦賀で行われました、こどもお仕事体験2020(inきらめきみなど)においても、各県連メンバーと交流ができました。

15日に敦賀で行われました、こどもお仕事体験2020(inきらめきみなど)においても、各県連メンバーと交流ができました。

特に、8月23日に鰐江で行われました、YEG全体交流事業「しあわせ働き方改革研修&福井一願アゲイン!全国大会への再決起集会」とスペシャルライブ!では会場の設営・準備等を通して、各県連メンバーと交流ができました。更に、11月15日に敦賀で行われました、こどもお仕事体験2020(inきらめきみなど)においても、各県連メンバーと交流ができました。

## 卒業生の 言葉



河上 剛志



岸本 潔武

この原稿依頼をいただいてから、自分が何年に入会して、何の委員会に所属していたのか、そしてどんな事業に携わったのかを思い返し、YEG 手帳を調べてみました。

入会は平成12年度、吉岡会長の時でした。

入会当時は何も分からずお祭りの委員会に所属していて夜中まで一言も喋らず過ごした覚えがあります。そんな私の思い出は第21回全国会長研修会ふくい会議です。

担当は大懇親会での織田町 OTA IKO 座明神への出演依頼から機材搬入までのスケジュール管理でした。当時雪が酷くて5尺の明神太鼓は搬出不可能になり、石川の浅野太鼓に変更して、なんとか無事に搬入でき、大懇親会も大盛況に終えることができました。

他にも福井YEGと一般参加者とのヨサコイチームもさせていただきました。

その後、副委員長をさせていただいた後は長い冬眠に入りました。

YEGで出会った人達のおかげで色々な団体や仕事にもつながり、社会人の基礎的な事も学んだと思います。在籍中はなかなか参加できずにご迷惑おかけしましたが、卒業してからも福井YEG の活動を応援しております。力になれる事があれ

ば気軽に声掛けください。今後共変わらぬお付き合いとご指導の程よろしくお願ひいたします。長い間ありがとうございました。

一つの所に15年以上も所属していたのだと、いまさらながらに感動しています。福井YEGの活動で決して自分は自己燃焼型の人間ではなく、誰かにポツと火をつけてもらうのを待っていたような人間だったのだと思い返しています。仲間がいて討論したり、笑いあつたり、涙が出たり、いつも誰かに助けてもらっていました。例会や委員会に参加予定を回答するときは、心躍らせてワクワクするのですが、いざ当日になると県外出張や、残業などでなかなか参加率が上がらず、数回参加せず久しぶりになる活動の時に、どんな顔して会に参加すればよいのかなと戸惑うのですが、参加率が低い自分に「仕事が一番やからね」「参加できるときは頑張ってや」というみんなの優しい言葉について甘えていました。久しぶりの参加でも仲間が周りの人と繋げてくれて、そこにはいる人達と話ができる。年齢とか会社の大きさに関係なく対等に話ができる。話をするとともにレベルが高い熱い話ができる。そんな福井YEGでした。



小辻 誠

尊敬していた先輩に「休会したいのですが」と願い出たのですが、「お前の性格ではもう帰つてこんやろ、絶対だめやぞ」って引き留めてくれたことがあります。社会の中で、会社の中で、どれだけの人が腹を割つてうわべでなく自分に忠告してくれるだろうと、よく思います。

平成20年度に入会してから12年間、長いようであつという間の青年部活動でした。

後半は会社での役職、立場も変わりあまり参加できませんでしたが、青年部での様々な事業を通して、自分自身と向き合い、考え、会員の皆様との交流の中で意見を出し合い、達成する喜びを得ることが出来ました。

バーは年齢も、社会的地位も、家族や、抱えている悩みがほぼ近い人たちが集まっています。経営という孤独な仕事をする中で同じ立場と一緒に汗をかける仲間がたくさんいて、心から話ができる輪がそこにはありました。

13年ぶりに福井へ帰り、自己研鑽ができればビジネス系の委員会に長いこと所属させてもらつ

ていきましたが、突然まち系の委員会に誘つていたとき、副委員長を経験させていたいた時は、仕事や家族とYEG活動のバランスが取れずかなり辛かったのですが、この時の1年は自分の心がすこく燃えていたと思います。本当に貴重な経験をたくさんさせてもらいました。

最後に福井YEGの活動を通してご縁をいただ

いた方々に本当に感謝です。まちの為に活動がでること、さらに商売を超えたものが福井YEGにはあります。何か一つでも一瞬でも心が熱くなれる瞬間を大事にして下さい。この度、福井商工会議所青年部を無事卒業できることに深く感謝申し上げます。福井YEGの益々の活躍を心から祈念します。

今振り返ってみると、みんなでバスに乗り向かっただ国大会、我が郷土「福井」を盛り上げようと頑張ったまちづくり委員会、おもてなしの心を学んだ周年事業、諸先輩方にご指導頂いた、事業に対する責任や想い、どれも貴重な経験、楽しい思い出です。

福井YEGでの経験、思い出を糧に今後の人生、経済活動に精進して参りたいと思います。

これまでの12年間を共に歩んで頂いた会員の皆様、諸先輩方に深く御礼申し上げます。

福井YEGの益々のご活躍を願い、卒業させていただきます。有難う御座いました。



齊藤 孝大

デンキですかー！デンキがあれば何でもできる！サイトー電器の齊藤孝大です。

弊社代表取締役就任を機にこの福井YEGに入会して5年、多くの学び・貴重な経験をさせていただきました。欲を言えばもっと早くに入会していればよかったです。代表取締役に就くより前に入会していれば、もつと縛られることなく多くのことを学べたのではないかと感じています。「あ」という間の福井YEG活動でしたが、「人づくり委員会」と「総務委員会」の副委員長として役員を経験したことと、アントレ・キッズやキャリア教育において講師を経験したことは、自分にとってかけがえのない財産となりました。

特に忘れられない出来事は、2019年度12月例会の「家族例会」です。奥様方が目をつぶつて二人の会員と手を握り、どちらが自分の旦那かを

当てるゲームで、見事?!私の妻だけが自分の旦那を当てることができませんでした(泣)。それから毎晩、妻と手を握って寝るようになったことは言うまでもありません(苦笑)。

今年度はコロナ禍の影響に加え大きな仕事が重なり、ほとんど活動に参加できませんでしたが、夫婦の絆まで深めてもらえた福井YEGに心より感謝申し上げます。

「この道を行けばどうなるものか危ぶむなけれ。危ぶめば道はなし。踏み出せばその一足が道となり、その一足が道となる。迷わず行けよ。行けばわかるさ」

1、2、3、ダーツ！ありがとうございました！



畠 有信

平成22年度に入会させていただき早10年、皆様大変お世話になりました。

当初は一会社員。勤務先の社長の勧めでの入会でしたので、こんな僕が入つてもよいのかという不安の方が大きかったです。しかし入つたからには自分に出来ることはチャレンジしたかったし、自分が大きaskell>

の例会など新しい活動方法を取り入れ、3月の全国大会の成功に向けての準備に参加できたことは卒業年度の最大の思い出です。

会員の皆様とは仕事や私生活に於いても深い繋がりができ、福井YEGを退くのはとても名残惜しいです。今年も延長!という声もあります。規約改正をすればいつまでも居ますが、50歳を超えて青年かどうかの考えもあります(笑)。この10年間で出会えた多くの仲間との友情・経験を財産とし、今後の人生まだまだ走り続けたいと思います。

最後に福井YEGの今後益々のご発展と、会員の皆様、事務局の方々のご健勝を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。



福田 智司

令和2年度、ようやく、やっと、どうにか卒業の年を迎えることができました。周囲の皆さまに見守られながら、卒業かと思えば延長という貴重な体験をさせていただきました。気が付けば卒業するしかない年齢となっていました。本当にありがとうございました。感謝しかありません。

平成22年度に入会し11年間の福井YEG活動でした。その間、副委員長7回、委員長1回、新入会員2回(笑)。いろいろ経験させていただき、楽しく活動することができました。

私の福井YEG活動のハイライトと言えば、やはり委員長をしたときでしようか。まちの委員会で、委員会メンバーと立ち上げた「水かけ祭り」は印象に残っています。委員会内では、これ以上の祭りは無いというくらいの盛り上がりの中で企

画を詰めていき、どんどんアイディアも出るので、新事業の大変さはありましたが楽しくできています。そのような中で生まれた「水かけ祭り」も年を追うごとに大きな祭りとなっていますので、このまま福井の夏祭りの代名詞となることを祈っています。じゃないと、あの当時の紛糾した役員会を思い出して、倒れそうです。(笑)

あとは、キャリア教育ですね。福井YEGでキャリア教育に関わることでPTAに関心を持てました。福井YEGは卒業まで、PTAは子どもの卒業までどちらも期間限定ですが、キャリア教育に関してはこれからもずっと、何かしらの形で関わっていきたいと考えています。

福井YEGでの出会いは本当に宝だと思います。みんな凄いわ、いい人だわ、と思いながら、一緒に活動させていただきました。多くの経験や学びは私にとって貴重な財産となりました。卒業後もどこかで一緒になることもあると思います。そのときはどうぞよろしくお願ひします。

これからも福井YEGが大きく発展することを祈念し、卒業いたします。本当に、ありがとうございました。



宮永 真孝

平成21年より入会して以来、様々な事業に関わらせて頂くことができ、大変勉強させて頂きました。後半は残念ながら出席することが出来ませんでしたが、特に会の在り方、事業に対してのアプローチの仕方や問題点の抽出、解決方法の模索、といったビジネスにおいても根幹となる部分が学べたことが私の中では特に大きな転機とな

り、厳しい競争状況化においても会社を経営していくことが出来ていると感じています。

YEGの活動の中でも特に思い入れの深かった

事業としてはキャリア教育事業です。私自身、何となく勉強し、何となく進学先を決めていたので、学生時代は何のために今自分が学んでいて、どういった仕事に役立つかが分からなくなり、就職時には苦い思いをした経験があつたことも要因の一つだと思います。キャリア教育事業に関わらせ

て頂くうち、自分の教育に対する新たな考え方や、社員教育に通じることなど多くの気づきを得ることが出来たことは大変有難いことでした。今後も色々な角度から子供たちの教育という意義について、自分の想いも加えながら関わっていきたいと思っています。

YEG活動の中でご一緒させて頂いた皆様、長

い間本当にお世話になり、ありがとうございました！

私は、今後も青年経済人として職務を全うしていきたいと思います。

これまでにお力添え頂いた会員の皆様に心から

の感謝と、今後の福井YEGへの希望を託し、卒業させて頂きます。本当にありがとうございます！

YEG活動の中でご一緒させて頂いた皆様、長い間本当にお世話になり、ありがとうございました！

た！



安田 圭介



山越 大輔

YEGに入会したのは確か平成25年だったと思

います。同じ士業仲間の不動産鑑定士山岸範之さん（平成28年度会長）にアミール片町ある今は亡き飲み屋（ご想像にお任せします）で酔った勢いで入会届にサインしました。

YEG活動で印象的だったのはキャリア委員会

の恒例行事、駅前アントレ・キッズですね。平成28年ハピリン誕生のYEG行事一発目でいい思い

出になつていて

副委員長になつて協力店集めとか小学生の管理とかかなり大変でした。今思い返すと楽しい思い出です。

ただ、その翌年くらいから税理士協同組合の専務を受けざる得なくなり完全にYEG活動を離れることになりました。仲の良いYEG会員とはよく飲みに行っていました。

今、日本の中小企業はコロナで瀕死の状態です。コロナは人間をマイナス思考に傾けます。

戦うには強い意志と未来への希望が必要です。困った人を助けないといけません、弱者は救済しないといけません。

私は、今後も青年経済人として職務を全うしていきたいと思います。

これまでにお力添え頂いた会員の皆様に心から

の感謝と、今後の福井YEGへの希望を託し、卒業させて頂きます。本当にありがとうございます！

YEG活動で印象的だったのはキャリア委員会

た。



# 新 入 会 員 紹 介



(株)パソコンビニ福井

竹内秋津

昨年10月に入会しました。弊社ではパソコンの販売、修理をメインにパソコンに関わることをトータル的にサポートしております。坂井市春江に店舗もございますので是非遊びに来てください。YEGではいろいろな方との交流の中で自分の中で今まで無かつた新しい考え方や、ひらめき力を養つていけたらと思います。至らないところもありますが宜しくお願ひ致します。



福井テレビジョン放送(株)

荒井俊哉

昨年4月に入会させて頂きました社会人1年目の荒井俊哉と申します。私は小中高と石川県で育つてきましたが両親が福井出身ということもあり小さい頃よく祖父母の家に遊びに来ていました。ただ、福井県についてまだまだ分からぬいたばかりです。YEGの活動を通じて様々な業種の先輩方から勉強させて頂き、福井県についての知識も深めていけれど思います。一生懸命頑張りますのでどうぞ宜しくお願ひ致します。



(株)ライフライン

中村建哉

弊社は福井市高柳で人材紹介・人材派遣など人材に関するお手伝いをしています。福井YEGの事業を通じて自分を成長させ、地域社会の発展に貢献したいと思います。今後とも宜しくお願ひします。



株式会社 かづみや

木瀬将盛

昨年の入会よりもうすぐ1年が経とうとしておりました。昨年はコロナ禍でも力強く様々な活動をされている諸先輩方に圧倒されました。本年は「凌雲之志を以て、凡事徹底を成す」という言葉をかかげ、活動できればと考えております。何卒、ご指導のほどよろしくお願ひいたします。



(株)ブルデンシャル生命保険(株)

野村真也



(株)ネオス(NEOS)



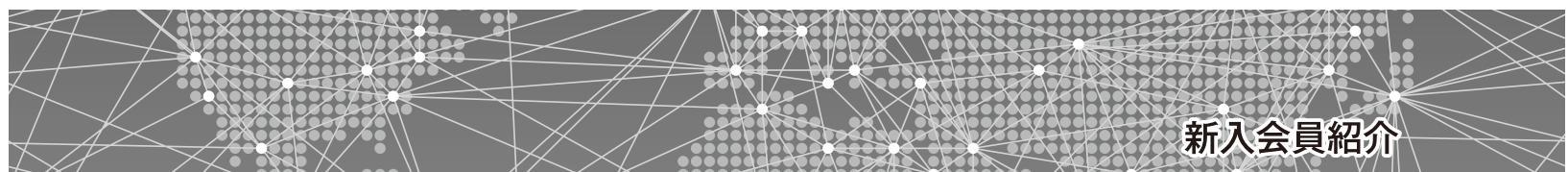
(株)ネオス(NEOS)

令和2年12月に入会しました。YEGの活動を通して、生まれ育った福井の発展に貢献し、素晴らしい魅力を発信していきたいです。また、様々な業種の方と交流させて頂くことで、幅広い知識を身につけ、楽しみながら、自分自身も成長が出来るようにしてきます。何卒、よろしくお願ひ致します。

(株)NEOSの中野良祐と申します。主にパーソナルトレーナーを行なっております。

長年効率の良いダイエットを研究する為に様々なトレーニングをしてきました。その中でたどり着いた効率的に効果を望めるトレーニングが特徴です。これにより健康的な身体を入れ、「今まで輝ける人生」をお届けするのがモットーですが、常に初心の「謙虚」な気持ちを忘れずに、「日々精進」を胸に勤しんで参りますので何卒よろしくお願ひします。

## 新入会員紹介



弊社は主に業務用厨房の設計施工と家庭用のオーダーキッチンを製造しております。

福井YEGの活動を通じ、微力ながら地域に貢献できればと考えております。

今後ともよろしくお願ひいたします。



(株)ホリチューボー

**堀 真人**



(株)マルキヤ宣広社

**木下剛男**

昨年の4月に入会して以来、YEGの活動を通じて、様々な業種で活躍する皆さんから良い刺激を受けています。僕も皆さんと一緒に輝けるよう頑張って参りたいと思います。

よろしくお願ひします。



ヒデ

**増田秀樹**



Up the Mark

**板坂祐也**

石川県から福井に移住し早12年。不思議な縁を辿り立ち上げメンバーとして入社した Up the Mark にて、これまた不思議な縁で代表を務めることとなり、縁ある企業の皆様の人材不足や人事の支援を続けて参りました。住み暮らしてきた福井には、"何もない"とよく言われますが、言葉にし難い幸せな"何かがある"と私は感じています。福井を支える皆様同様に、私自身も大好きなYENマネーカレッジは、「必要な情報を必要な分だけ得てもらう」で在りたいと思つております。

また、マジシャンとしても東京で15年活動のちに福井県に手品家を立ち上げ活動しております。YEGを通して切磋琢磨し刺激し会えたら良いなと思つております。宜しくお願ひいたします。





## 令和3年度 会長 抱負

令和3年度会長  
天野 準一

見えない未来に迷うことなく、多くの人がそれぞの豊かさを見つけられる福井になると、どれだけ素晴らしいことでしょうか。

令和3年度福井YEG会長を拝命いたします、天野 準一です。

「スローガンを「Richness creators が創る」とし、活動を通して自らの郷土に誇りを持ち、会員だけではなく地域の人たちとも、相互の関わりを強めることによって、この不確実な社会のなかでも豊かさを実現していくことを目指します。

今こそ私たち福井YEGは県都福井の誇りをもち、郷土福井の明るい未来への歩速を一段と早め、次の3つの「豊かさ」に向け、行動いたします。

### 1つ 精神的・経済的な個人の豊かさ

私たちのビジネス環境は、地域の経済的発展と直結しています。YEGは地域を支える若手起業家集団であり、持続的かつ発展的な経済活動による経済的な豊かさの実現は使命の一つです。

そのため令和3年度は一年を通して世界の時

流・潮流を学び、自企業のビジネスに生かし、かつ体系的な学びの場を設け続けます。会員企業全員がこれから未来を乗り越える知恵を得て、未来への一歩を踏み出していきます。

そして、経済的な豊かさの追究を考えると同時に、精神的な豊かさについて考えていきます。

福井YEGでの活動に参画すること、事業を構築することが、自己実現を図る舞台と考え、自身の想いを起点とした活動が実現される団体へと変わっていきます。福井YEGには、失敗を恐れずチャレンジする土壤があります。

私たちの先輩方は個人の想いを形にし、会を動かし、地域・行政と協動し、次の時代にも続く事業を作り続けてきました。

個人の想いを形にできるやりがいを感じ、活動を通して自身が認められ、会の中に居場所ができるいくという安心感などが生まれ、精神的な豊かさへとつながっていくのです。

### 2つ 協動の実践による、個人から始まる組織の豊かさ

郷土福井の明るい未来を実現するためには、この豊かさを広め、循環させていくことが重要です。

そのため令和3年度の私たちは、郷土福井にある数多くの寄合・団体と協動し続けることで我々の「協動を通してより豊かな未来を協（とも）に創る」という想いを伝え続けていきます。

その継続が、福井YEGから離れても、地域のいたるところで協動が行われることにつながり、持続的な循環を生み、私たちの豊かさへと帰ってきます。

そして、互いの良さを知り合った人たちが街中に生まれ、気が付けばどこに行つても気心の知れた仲間と出会える街になるのです。これらの三つの豊かさを叶えるべく、協（とも）に歩んでまいりましょう。

考える資質が育まれます。

個人が変われば、その影響で所属する組織も変わります。

地域・団体を超えた協動は、青年部にはない良さを持つ多方と関わることで個人が成長します。

そして、事業を構築する過程で、ともに悩み、ともに汗をかき、ともに達成の喜びを分かち合ふことで協動をした相手とは信頼と絆が生まれ、次の協動へとつながっていくのです。

### 3つ 伝播し、循環し続ける豊かさ

## 令和3年度 委員長 抱負



専務特務室兼総務委員会

専務兼総務委員長  
竹内亨

令和3年度、専務兼総務委員長を拝命させていただきます。これまで福井YEGにはなかなか役職名を拝命しました。総務の職務分掌に加えての専務職で大変でもあり、気負うところもありますが、これまで誰もやつたことがないことが出来るのを楽しみにしている自分もいます。委員会名が長いので下記は特総と表記させていただきます。

委員会テーマとして「意志があるところには道があり」、そして「急ぐ」となく、しかし休むことなく」をテーマに進めていきます。新しいことをするには勇気と意志が必要となります。意志を継続するためには、一歩ずつ進めることが重要だと思っています。

委員会メンバーの構成も、全員が役員を経験されており、半数が執行部を経験されています。つまり、私よりも経験が豊富な方が多いことが、今回の特総の特徴です。その分、私自身が成長する機会をいただけたと感じております。当委員会のもっとも重要な職務分掌は、会長のスローガン『Richness creators』～交わりあい、高めあい、豊かな郷土は我らが創る～からの基本方針や、会長の思いを形にすることです。この職務を持つ

て、他の委員会の支えになるような委員会運営をしていけたらと思っています。

私が会長の基本方針の中で感銘を受けている点があります。『福井YEGでの活動に参画する』と、事業を構築することが、自己実現を図る舞台

と考え、自身の想いを起点とした活動が実現されると考えます。まずは、会員一人ひとりが強くなることは必要なことです。そして会員が結びつくことで、福井YEGはより強固な団体となっていました。さらに福井YEGの活動を通じて、他者・他団体との結びつきを強くしていきます。会長の言葉はこれららの結びつきを強めていく第一歩目ともいえます。総務委員会は裏方であるものの、すべての会員のことを把握し、組織として結びつけるよう努めが求められる委員会だと思っています。

最後に、始まつてみないことにはわかりませんが、どのような状況、どのような環境においても委員会メンバーを大切にし、全員でフラットに楽しむという点だけは、委員会テーマに沿って突き通していくたいと思っています。この1年をかけて会員から頼りにされる存在になれるよう、活動を行っていきます。よろしくお願ひいたします。

この委員会は永続サポート委員会と名付けさせていただきました。委員会のミッションとして、どんな環境下でも「福井YEG会員企業は、永続する企業となる」を掲げさせていただきました。企業を永続させるためには、単に現在の企業活動の延長線を歩んでいくだけでは難しいと考えます。企業の永続のために、克服しなければならない課題として、予測不能の時代に耐性をつけて、デジタルを積極的に活用して自社の生産性向上や様々な方との協働を広げ、お客様との関係性を進化させ、イノベーション起こしていく事が大事になつてくるのではないかと思います。そのヒン

永続サポート委員会  
委員長  
石間光太郎

私は、令和3年度、はじめての委員長を務めさせていただきます。昨年度副委員長を務め、様々な委員長を間近に拝見させていただき、「すごい方達だな」と思っていた所に、お声掛けをいたしました。とても身の引き締まる思いでございます。

さて、令和2年度はコロナによって経済的にも精神的にも、大きく苦しめられた年度だった方がいらっしゃると思います。多くの経営者やリーダーがいる福井YEGの会員はこのような逆境にも積極的にやれることを見出し、前へ進んでいかなければならぬという思いを抱いているのではないでしょうか。

この委員会は永続サポート委員会と名付けさせていただきました。委員会のミッションとして、どんな環境下でも「福井YEG会員企業は、永続する企業となる」を掲げさせていただきました。企業を永続させるためには、単に現在の企業活動の延長線を歩んでいくだけでは難しいと考えます。企業の永続のために、克服しなければならない課題として、予測不能の時代に耐性をつけて、デジタルを積極的に活用して自社の生産性向上や様々な方との協働を広げ、お客様との関係性を進化させ、イノベーション起こしていく事が大事になつてくるのではないかと思います。そのヒン

トとなる例会や事業を委員会メンバーで構築して、福井YEG会員の永続する企業へのサポートを行い、自企業の経済的・精神的な繁栄に貢献できればと考えております。

また、例会・事業を担当したメンバー自身が、楽しんでもらえるようにしていきたいと考えております。楽しんでもらうためには、自身が強くやりたいと思ってることを例会・事業で行えるようにしていきたいと思います。その『強い思い』が、周りのメンバーを動かす原動力となり、例会や事業に参加した方が楽しめる一因になると思つております。大切にしたいと考えております。

先述したことの実現するのはとてもハードルが高いことだと思います。でもYEGは失敗している、チャレンジすればいいという文化が色濃くありますので、胸をかりさせていただきたいと思います。

初めての委員長で実力不足は多々あると思います。ただ、周りの意見を積極的に聞いて、自身で改善できることがないか常に考え、実行し続ける一年にしたいという心づもりでございます。もし不甲斐ないことをしておりますと、積極的にご指導・ご鞭撻をいただければと思います。

どうか一年間、何卒宜しくお願ひ致します。



BUNZUまちづくり委員会

上田敬士  
委員長

私は、まちづくり系委員会の委員長として何を目指すべきか、とても悩みました。悩んだ結果、私の目標ことは『福井YEGの行っているまちづくり事業を、もつともっと多くの方々に知つていただき、過去にないほど多くの方々に協働・参加していただき、多くの協働者参加者とまち全体を楽しく元氣にすること』です。

福井YEGの行っているまちづくり事業はとてもなく素晴らしい、魅力があり、盛り上がる事業で参加者も大喜びで「楽しかった、ありがとう、また参加します」との声をいたいでいます。

しかし、まだまだ認知度が低く参加者が少ないと感じ、一部の方にしか楽しんでいただけていないと思つています。福井YEGのまちづくり事業は、もつともっと多くの方々を笑顔に出来る、元気に

福井YEGの行う事業の中でも、まちづくり事業というのは対外的事業であり、福井YEGの素晴らしいを外にPRする最大の機会でもあります。福井YEGをもつともっと多くの方々に知つていただければ、「福井YEGと関わりたい!」、「福井YEGと一緒に何かやりたい!」、「さらに福井YEGに入りたい!」という人達との出会いのきっかけにもなります。

まちづくり事業は委員会メンバーだけで出来るものではありません。福井YEG全員の力が必要です。福井のまちを、そして福井YEGを盛り上げ、BUNZUらせるべく1年間頑張って参りますので、皆様ご協力のほどよろしくお願ひ致します。

令和3年度は委員会メンバー全員で楽しむことを大前提に、協働を意識した事業作り、協働を意識したPR(SNS等も活用)、さらには皆が驚きワクワクする新規事業を委員会で考え構築します。市民、県民、さらには日本中の人にPRし、多くの方々に協働・参加していただけるインパクトのある事業を行い、まちを盛り上げ、まちを豊かにしていきます。現状は、コロナ禍ということもあり、従来のまちづくり事業のような、多くの人々が集まることが不透明な世の中ではあります。しかし、令和2年度で培つたWEBの活用やさまざまな経験を活かして、その時その時の状況に合わせた安心でベストな方法を考え活動しています。

令和3年度は委員会メンバー全員で楽しむこと

キャリフロンティア委員会  
委員長

大矢学

私たち福井YEGが今まで行ってきたキャリア教育事業は、「お仕事探検隊アントレ・キッズ」をはじめとし、「えきまえアントレ・キッズ」事業や、保護者を対象とした「ミライのチカラ」プログラム、「オンラインアントレ・キッズ」など、教育現場はもちろん、他の団体にも誇れるような素晴らしい事業であり、福井市はキャリア教育の分野においては国内でも最前線だと自負しております。

しかし、単年度制である福井YEGにとって、これらのキャリア教育事業の効果を検証し、その効果を会員が実感するには、キャリア教育の性質や、会の特色も相まって、単年度で完結するような事業だけでは難しいという課題もあります。

令和3年度、福井YEGのキャリア教育委員会である「キャリフロンティア委員会」は、他のYEG単会はもちろん、学校や行政、他の地域団体や経済団体他といった他団体と積極的な交流を目指し、福井YEGが果たすべきキャリア教育事業の役割や立ち位置を明確にします。それもつて、事業の効果や検証が目に見えて分かるよう、複数年にわたって他団体や教育現場と伴走できるような事業を模索します。

そして、これらの事業を福井YEGだけでなく、他のYEG単会も巻き込み、共有することによって、日本各地にキャリア教育の大きな渦をつくりだしたいと考えます。

「キャリア教育系の委員会」は、その事業の効果を実感するのが難しく、積極的な参加に足ぶみしている会員や、ただの社会貢献にも似た事業や委員会そのものの存在を疑問視する会員も少なくありません。

しかし、青年経済人がキャリア教育事業で提供できる役割や、事業によって私たち自身が得られる効果は、子どもたちはもちろん、自社や地域にも還元することによって、福井YEGというブランド力が向上されると同時に、福井という地域全体がさらに豊かで、魅力的な地域になることにつながります。

キャリア教育事業によって、将来福井で働きたい、福井の発展のために働きたいと思えるような子どもたちが増える。

キャリア教育事業によって、社員が成長し、その後の結果自社の発展につなげることができる。キャリア教育事業によって、自分自身も成長できる。その結果、郷土がさらに発展し、私たちの豊かさにも繋げていけるような委員会を目指します。

1年間よろしくお願い致します。

そして、これら事業を福井YEGだけでなく、他のYEG単会も巻き込み、共有することによって、日本各地にキャリア教育の大きな渦をつくりだしたいと考えます。

そして、これら事業を福井YEGだけでなく、他のYEG単会も巻き込み、共有することによって、日本各地にキャリア教育の大きな渦をつくりだしたいと考えます。

熱盛委員会  
委員長

増田悠二

令和3年度福井YEGの委員長を拝命しました、北鋼シャーリング株の増田悠二と申します。委員長としての抱負をということですが、まずはこの機会に自分の入会当初から現在までを振り返ってみたいと思います。

私がYEGに入会したのは2016年4月。去る3月に開催された全国大会しあわせ福井さばえ大会の某大会会長にお声がけいただいたのがきっかけです。「2020年度に全国大会が福井に来るからお前も手伝え!」:いや、もっと優しい言葉だったかも。いずれにせよ公私ともにお世話になっている先輩からのお誘いに、答えは「はい」か「イエス」の二択しかありませんでした。

では、(ここだけの話)もともと全国大会の終了と共に、すーっと幽霊会員へとシフトしていくと思っていたYEGで、委員長を受けるに至った要因はなんなのだろうと考えてみました。

YEGメンバーは、新しい事業を興したい、取引先を増やしたい、相談相手が欲しい、飲み仲間が欲しい:様々な目的を持つて集まってきた仲間です。その入り口となるのが、新入会員委員会です。入会目的はもちろん、会社の規模や役職、年齢など、多様なメンバーがフラットな立場で集まる委員会は、メンバー間に絶妙な距離感があつた

## 令和3年度 委員長 抱負

と記憶しています。しかし、それが1年間同期メンバーとして交流し、議論し、一緒に事業を構築していくと：個性が溶け合い、居心地のいい関係性に変わっていきます。

この同期メンバーとは、例会で顔を合わせれば冗談を言い合ったり、飲みに行つてはあの先輩はあーだの組織がこーだの言つたり、終いにはYEGの未来なんか語っちゃつたり：同期特有の、特別な関係が続いています。それはとても居心地良く、私が楽しくYEG活動を続けて来られた要因の一つであることは間違ひありません。

組織には集団の力学が働きます。私もそんな同期メンバーの刺激の渦にいつの間にか巻き込まれ、この道を選択したのでしょう。今では令和3年度委員長として、彼らと福井の未来を創る一翼を担えることなくわくわくしています。

これから一緒に新入会員委員会で活動する皆さんも入会目的はそれぞれ違うでしよう。しかし、それら全ての目的を達成するための共通条件は、同期に限らず志を共にするYEGの仲間との絆だと思います。

最後に。せっかく貴重なお金と時間を割き、会社の看板を背負つてまで活動するYEGですか、積極的に参加しないともつたない！皆で楽しく絆を深めながら、未来へつながる年度としていきましょう。1年間よろしくお願ひします。



## あじさい会通信

福井商工会議所青年部OB会（あじさい会）

会長 堀田 達也



「たのしみは 心をおかぬ 笑ひかたりて 友だちと

腹をよるとき」

幕末期の歌人橋曙覧が、日常の何気ない楽しみを詠んだ独楽吟の一つです。青年部の活動は心置かぬ仲間たちと、時には白熱した議論を繰り広げ、困難を乗り越えながら事業を構築し、肩を抱き合って喜び合う。そんな光景が当たり前であったはずです。

ところが、昨年来から世界中で蔓延している新型コロナウイルスの影響で、事業は疎か、集まつて議論することも困難になり、中川会長をはじめとする現役の皆様方は非常に不自由な一年を過ごされたこととお察しいたします。当然のことながら我々「あじさい会」も総会は書面決議、恒例の研修会も行われずに、一度も現役との交流が出来ないまま今年度を終えることになりました。

奇しくもこのような時期に賛否両論様々な意見が飛び交う中、「第40回全国大会」をあわせ福井さっぽ大会」が開催されることとなり、試練の年となつことは否めないと存じます。

いま私たちは当たり前の日常生活がいかに大切であったかを知り、いかに克服していくかの大変な岐路に立たれています。だからこそ、敢えてこの数奇な運命を奇貨として地域を引っ張っていく青年経済人に出来ることは何かを深く思慮して頂けたら幸いです。我々あじさい会は現役の皆様方の事業を見守ることしかできませんが、相談事や要望には積極的に応えていこうというスタンスを常にとっています。こういう苦しい時にこそお気軽に声をかけて頂ければOBとしても出来るだけの協力は惜しみません。最後に現役をご卒業された暁にはぜひ「あじさい会」にご入会いただければ幸いです。

### ご結婚おめでとう

竹内 秋津 会員



1. 結婚日：令和2年1月28日
2. 配偶者のお名前：竹内 真璃乃（たけうち まりの）
3. なれそめ：知人の飲み会で
4. 相手の呼び方：あきつ・まり
5. ひと言：  
秋津「嫁とこれから生まれる子供のために頑張ります！」  
真璃乃「コロナで大変な時期ですが負けずに頑張ります。」

### こんにちは赤ちゃん

小前田 宙 会員



1. 誕生日：令和2年5月4日
2. お名前：小前田 宙（あおい）
3. 生誕を受けてひと言：パパ大好き！  
真璃乃「コロナで大変な時期ですが負けずに頑張ります。」

今年度は新型コロナウイルス感染症という未曾有の危機に直面し、すべてがイレギュラーとなつた年になってしまいました。特に「集まらない」という状況は多くの人にとつてストレスだつたかと思います。

さて、自分のことを考えると、そこで困った記憶はありません。基本的に趣味が一人で完結するものだからです。ということで、春先から夏にかけて何度も一人旅に行きました。

といつても県内限定です。若原温泉、三国、勝山、美浜町、小浜市、名田庄村…それぞれ何の計画も立てずに気分次第で渡り歩きました。近場の酒蔵に立ち寄つて酒を買い込んで宿でいただく、釣り堀で黙々と魚を釣り、黙々と焼いて食べる、などなど。宿代についてはかなりGotoトラベルに助けられました。もう一つの趣味は一人飲み。酒場には行けませんでしたが、その分家飲みをしていました。いいタイミングで「ふくい地酒・未来チケット」が展開されていましたので、2セットほど使って地酒も楽しみました。

楽しい思い出だけならよかったです、一つ苦い結果が。年度当初80kg台だった自分の体重が、気が付くと四捨五入したら100kgという状態になつてしましました。今はそのツケを払うのに苦労しています（笑）

石田 優雅

西木田通信